

千瓢

The Senpyo

富山県立大学同窓会機関誌
第12号

発行日：2017年(平成29年)6月1日
発行：富山県立大学同窓会 会長 野開勝政
編集：「千瓢」編集部 [編集長 池上 勤, 編集員 炭谷 優子]
住所：〒939-0398 富山県射水市黒河 富山県立大学内
電話：0766-56-7500 FAX：0766-56-0396
メール：senpyokai@pu-toyama.ac.jp
URL：http://tpu-dosokai.jp/

巻頭対談

足立原貫氏
×
野開勝政同窓会長

足立原先生 大いに語る

「文明批評の実践」と評価される「草刈り十字軍」運動や「人と土の大学」「山崎賞」「中国への技術協力」など多方面の活躍を展開している元富山県立大学短期大学部長足立原貫先生に生い立ちから、最近の心境まで大いに語っていただきました。

野開 今日はお忙しいところありがとうございます。「お久しぶりです」といっても先生は私のことを覚えておられないと思いますが、私は技術短大時代の農林土木科6回生の学生として昭和51年頃に先生の講義を受講しています。

足立原 そうだったのですか。

野開 過日行われた北日本新聞文化賞贈呈式では功労賞として、「草刈り十字軍運動本部（足立原貫代表）」が受賞されました。これまで取り組んでこられた長い活動が認められ受賞されたと思います。本当におめでとうございます。当時から先生は「草刈り十字軍」の先駆者としてよくマスコミでも報道されており、たいへん有名な先生の講義が聴けると楽しみだった記憶があります。先生は東京生まれの東京育ちと聞いていますが生い立ち等を教えて頂けますか。

■ 生まれは東京・本所

足立原 上野・浅草側から隅田川を渡った本所区厩（うまや）橋、現在は墨田区ですが、その上手の向島（むこうじま）から下手の深川へ抜ける「三ツ目通り」という大通りに面して私の生家はありました。父は業界で名の知れた鈴職人として一家



2016年11月7日 富山県民会館 会議室にて

目次

1 巻頭対談 足立原貫氏×野開勝政同窓会長 「足立原先生大いに語る」

5 次世代へ継ぐ「草刈り十字軍」 足立原 貫

6 足立原君という人 山崎 正一

7 インタビュー 中田 崇行 准教授

8 美に魅せられて20年 今井 準子

8 私の好きなもの 磯部 貴弘

9 研究室の近況案内

資源循環工学・環境政策学講座／材料設計加工学講座／

植物機能工学講座／情報基盤工学講座／知的インタフェース工学講座

9 はてなクイズ

12 大学ニュース

12 ありがとうございます(広告掲載企業一覧)

13 探しています(会員住所不明者の一覧)

18 エトワール会訪問記 須田 正樹

19 赤間宗民先生を偲ぶ 今井 秀昭

20 富山マラソン2016 体験記「何が得られたか？」 岩井 学

21 平成28年度同窓会総会を振り返って 田中 克典

22 「ポートランド州立大学語学研修」報告書

高野 溪介／地原 大／松永 清雅

24 吉田初代千瓢会会長を想う 荒木 甫

26 3冊の本 池上 勤

27 同窓会誌 荒木 薫

27 声

28 平成29年度同窓会総会のお知らせ

28 編集後記

題字は浦野泰子さんにたのみました。浦野さんは富山県立大谷技術短期大学の応用数学科の1期生です。

足立原 貴(あだちはら とおる)

1930年東京・本所生まれ。東京都立上野高等学校、東京大学教養学部理科Ⅱ類、同農学部、同大学院を経て東京大学助手、大分県農業試験場技師、富山県立技術短期大学助教授、同教授。富山県立大学短期大学部教授、同学部長。1996年定年退職。その間67年に廃村を拠点として開始した「農業開発技術者協会」の運動を基軸に、「人と土の大学」「草刈り十字軍」「山崎賞」「中国への技術協力」など幅広い実践を続けてきた。
著者『一つの社会の死から』『やる者がやるときに』『道標はない』『土に根ざした20年』『山へ入って草を刈ろう』『へんじゃないか、へんじゃないか』等



を成し、真鍮鈴とその関連金属玩具類を製作販売する町工場と店を構えていました。私は昭和5年生まれ、四人の姉、一人の兄、二人の妹らの家族と住み込みの奉公人や仕事見習い人たちも加わる大世帯に、通いの職人たちや得意先の商人たちの出入りも多く、わが一家の最盛期だったのでしょうか。

■ 東京大空襲

野開 その頃、第二次世界大戦が始まり平穏な生活が一変したのではないのでしょうか？

足立原 自分史の歳月をたどるとき「生年月日」とともに、忘れることなく即座に口に出る「年月日」がいくつかあるものでしょう。私の場合「昭和5年7月15日」という生年月日とともに忘れることがない「年月日」が東京大空襲の「昭和20年3月10日」です。戦争は激化し、日本の敗色が濃くなっていったようなのに、「大本営発表」を疑わない<軍国少年>の一人だった私は、中学3年生の3学期、3月9日の朝から「軍事教練」で東京郊外に出動、強行軍の汗を流し、その深夜、米軍機B29大編隊の襲来、翌10日の明け方にかけての焼夷弾爆撃で、東京下町一帯は焼け野原となって、10万人を越す死者が出ました。

野開 焼野原となった中、助かったのは奇跡に近いですね。

足立原 そのとき、わが家にいたのは兄と二人の姉と私の四人でしたが、ふだん父から大正12年の関東大震災のときの経験をよく聞かされました。町全体を焼きつくす大火に囲まれてしまうようなときは、どんなに恐ろしくても、水をかぶって風上に逃げろ、ということでした。私たちはそのとおり、三ツ目通りを隅田公園方向へ進み、吾妻二丁目の交差点を右に折れて業平橋を渡ったところ、今行ってみると業平一丁目の交差点で目前にスカイツリーが天高く立っているところです。そのとき、幾時間か前に焼け落ちて破裂した水道管から水が吹き出していました。そこで20人ほどが生き残ったのです。夜明けとともに焼け跡で多くの死体を目撃しました。ごろごろとこがっている黒焦げの死体を見たとき、マネキンの人形が

黒焦げでこがっている。こんな洋服屋さんがあったかな、と思ったほどです。赤ちゃんをおんぶして橋の欄干に手をかけている死体がありました。隅田川にとびこもうとしたのでしょうか。

野開 想像を絶するたいへんな経験をされましたね。戦災の影響でどこかへ疎開されていたのですか。

足立原 いえ、我が一家は、戦災前、すでに疎開状態でした。金属を扱う家業ができなくなり、職人たちは徴兵され、父は軍需企業の役員に仕立て上げられて埼玉県熊谷に急設された兵器の部品工場の責任者となっていたため、父母と妹たちは熊谷で生活していて3月10日の東京大空襲のとき、生家にいた四人も戦災後、熊谷へ移住しました。

野開 学校はどうされていたのですか。

足立原 当時私は旧制の東京都立上野中学校3年生でしたから、埼玉県立熊谷中学校へ転校ということになるところ、そのまま上野中学校へ通いました。3時間の列車通学でした。

野開 物資や食料も不足している時代、食糧事情も大変だったでしょう。

足立原 戦中・戦後、それはたいへんなことでした。配給制の米も滞り食糧をめぐる殺人事件までおこったほどでした。食糧不足・栄養不足で健康維持は困難。私は敗戦の翌年、中学4年生でしたが、肺結核で2年間休学しました。住んでいた熊谷が昭和20年8月15日の終戦前夜に空爆で焼けていたため十分な治療を受けられず、自宅でただじっと寝ているだけでやっと入手できたサツマイモを食べていたような闘病生活でした。それでもどうにか復学できて今日に至ったのですが、休学中に学校制度が現在のような、小学校6年、中学校3年、高等学校3年になり、都立上野中学4年生で休学した私は、都立上野高校1年に編入され、現在に至るまでの人生を歩み出したのです。

■ 東大農学部へ

野開 東大農学部へ進まれた動機とかはあったのですか。

足立原 土から遠い生まれと育ちからか、土へのあこがれが強かったのでしょうか。子供のころ遠足で土に接するところへ行くと、弁当箱やバスケットに土を入れて持ち帰り、当時木製だったリング箱やミカン箱の空箱で箱菜園を作って楽しんだものです。大学で農学徒の道へ入ったのも土への愛着からでしょう。



野開 当時の学生時代は、たいへんな動乱の時代だったと思われていますが。

足立原 「時代」をつけて語るときは、時代背景の大きな「事件」を思いおこしますが昭和26年の4月から28年の3月までの教養学部時代には皇居前広場でのメーデー騒乱事件をはじめ、さまざまな事件が続発し、当時の多くの学生にとって、それも寮生活をしてきた学生には忘れがたいものでしょう。教養学部で駒場寮生活をしてきた私も、当時のことは鮮明におぼえています。本郷の農学部時代には、社会の騒乱に巻き込まれることもありませんでした。入学から卒業まで、親もとを離れて奨学金とアルバイトだけでの自活でなんとか生きてきました。

野開 先生は東大卒業時には農学部の総代だったと聞いていますか。

足立原 やあ、そうでしたな、いろいろありましたよ。

野開 その後、大学院へ進まれていますよね。東大の助手時代には、東大農場勤務、その後、大分県農業試験場に赴任され、そして昭和38年、当時の吉田知事に強く招かれ富山県へ転任してこられたそうですね。

足立原 当時の富山県立大谷技術短期大学が創立されて2年目の夏、農業機械科助教授としてでした。

■ 日本を飛び出す

野開 着任され、半年ほどで日本をとび出されたと伺いましたが。

足立原 「研究者を育てるのではない、実践者を育てるのだ」という果たすべき自分の役割を自覚し、使命感に燃えて赴任してきたものの、それまで私自身がトラクタを駆使する農法を実体験してきた現場は、東京大学農場と大分県農業試験場で実際に日本の農業を担う農作業が展開されている農村農業の現場ではない。トラクタ農法が実際に展開されている欧米の農村を見たい、営農を担っている人たちがトラクタを駆使する現場を直接見

野開 勝政 (のびらき かつまさ)

富山県立大学同窓会 会長



昭和52年3月 富山県立技術短期大学 農林土木科第6回卒業
 昭和52年4月 小杉町役場勤務
 平成17年11月 市町村合併により射水市役所へ
 平成24年4月 射水市役所都市整備部次長
 平成26年4月 射水市役所上下水道部次長
 平成28年4月 射水市役所上下水道部部长
 平成29年4月 射水市公園等管理業務公社専務理事

たい、と思ったのです。でも、一般の海外渡航がまだ極めて困難だった時代で、旅費もない。海外在住の知己友人たちから招請状をもらって、パスポートの交付を受けると、私の暴挙を支援しようという仲間たちへ20枚余の借用証書を書きまくって、旅費を工面しました。1ドル360円で、許容される所持外貨500ドルという時代に袋ひとつ背負っての貧乏旅行で、奇しくも前任地・大分県の佐賀関からバンクーバーへ向かう貨物船に便乗させてもらって、昭和39年の早春、北太平洋を渡りました。着任して半年後の私のこんな行為が問題化しないはずはないと覚悟して、谷安正学長に辞表を預けての暴挙でした。

野開 どのような国を旅されたのですか。

足立原 国名だけでいえばカナダ、アメリカ、フランス、スペイン、イタリアなどでした。

野開 帰国されてからは。

足立原 谷学長が私の辞表を握りつぶされ、学科もあたたかく迎え入れてくださいました。

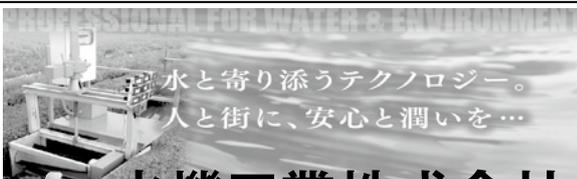
■ すばらしい若者たちとの出会い

野開 当時、住んでおられた小杉公舎の先生の部屋が学科やクラブを越えて学生たちのたまり場になったと先輩たちから聞きました。そういうことが、後年の草刈り十字軍運動など全国的に知られるようになった社会活動につながっていったのですね。



<http://www.matsump.com/>

株式会社 **松村精型** 代表取締役 松村 浩史
 〒933-0951 富山県高岡市長慶寺 805 Tel.0766-25-1715



水機工業株式会社

代表取締役 **大井 茂** <http://www.suikikogyo.co.jp/>
 本社 富山県黒崎172 TEL 076-491-2533(代)
 小矢部営業所 富山県小矢部市柳原748 TEL 0766-67-2858(代)



測量・設計・補償・調査

株式会社 寺島コンサルタント

富山市田中町 1-14-10 代表取締役 寺島 雅峰
 TEL 076-444-1355
<http://terasima.jp/>



MMS (車載型レーザー計測システム)

- ・ 3次元空間を走りながら計測する。
- ・ 3次元データの活用。

足立原 ええ、すばらしい若者たちとの出会いの場になりましたね。南米へ移住して大きな農業をしたい、親を捨てるか夢を捨てるか、と悩んだり、開発途上国で食糧増産の仕事にかかわりたいとか、地球を耕そうの大望を語り合いその実践の道を求める仲間が集まり、育っていきました。当時社会が激変し、時代の流れが変わり、各地で廃村が続出し始めていたころです。50年前のことですが、まさにいまの時代のような社会状況でした。いまだきの富山県民にとって「新幹線」「東京オリンピック」といえば「北陸新幹線」と「2020年の東京オリンピック」の話題となってしまうでしょうが、私が富山県民となった翌年の無謀な海外旅行をした当時、「東海道新幹線」の開通と1964年（昭和39年）の東京オリンピックの開催で、日本中が沸き立ちその年に、当時の富山県上新川郡大山町小原という集落が廃村になっていました。その小原が今日まで続く私と若い仲間たちとで継続してきた諸活動の拠点になったのです。「農業開発技術者協会」という気負った名の任意集団を結成し、開かれた営農体の確立をねらうとともに、土に根ざす生存と生活の価値の探求をめざす「人と土の大学」の開講など、一般の営農のワクを超えての活動を展開してきました。

■ 人と土の大学・山崎賞

野開 「人と土の大学」の具体的な内容を教えて頂けますか。

足立原 当時「大学紛争」が社会を揺るがせる一方、大阪の万博が全国を沸かたせていて揺らぐ文明社会の底流には土から遠ざかった人と人のつながりが切れていく不安が渦巻いていると思えました。そんな状況下、廃村を拠点とする私たちの実践が報道されると、さまざまな受けとめ方をした人たちが、全国各地から小原へ訪ねてくるようになりました。私たちの実践の場が現代に見失われている一つの価値の創造の場として“学び合いの場”となると気づき「共感を抱かれる価値の創造の場」こそ“大学”であるとの思いで私は同志たちと昭和45年（1970年）8月全国に呼びかけて廃村・小原で三泊四日の「人と土の大学」を開講しました。募集定員30人に600人の応募があったという大きな反響で、以後毎夏継続することになったのですが、その学び合いに参加くださった哲学者・山崎正一先生が、東京大学退官の際の退職金を私たちに託され、私たちは山崎先生の芳志を生かすべく地道な研究分野の若い研究者へ贈る「哲学奨励山崎賞」を創設し、昭和48年秋に富山で第1回授賞式を挙行、昭和58年10周年を機に名称を「山崎賞」と改め、受賞対象を哲学分野に限らず、自然科学にまで広げて平成24年まで山崎賞奨学会として授賞式を開催してきました。

■ 草刈り十字軍

野開 さまざまな活動をしてこられた先生ですが、足立原先生というとすぐ「草刈り十字軍」が思い浮かびます。43年にわたった草刈り十字軍の活

動は今年の夏で終えたのですが、この活動で得たものは「実践の中から培った哲学」とも言えるのではないのでしょうか？山を守ることは海も守ることになると思います。豊かな山で育まれた水が川を下り海に入り海も豊かにすると思います。草刈り十字軍の活動は山だけではなく巡り巡って川・海的环境保全にも役立ってきたと思います。これまでの活動は県民の環境問題を高め、行政の取り組みにも一石を投じるとともに環境問題を考える実践の場でもあったと思います。

足立原 「草刈り十字軍」の鎌をおさめましたが、草刈り十字軍運動はそのことが終わったという終了ではなく、一つの課程が修了したのです。

野開 草刈り十字軍の誕生と運動の展開を書かれた先生の著書を原作に俳優座の加藤剛さんが足立原先生役を演じられて映画が制作されましたね。先生が書かれた「遠い祖先の詩（うた）がある」の詩を加藤さんが朗読したCDがあることも聞いています。

足立原 映画の件はユネスコの全国大会で知り合った作曲家の木下忠司さんからお兄さんの木下恵介監督につながって映画化の話となり紆余曲折ありましたが、最終的には、吉田一夫監督、加藤剛主演、俳優座の協力を得て映画は完成。文部省選定映画として公開されていきました。

野開 ただ反対するだけでなく対案を示し、その対案を自分たちで実践したことで、それまでのさまざまな市民運動の流れを変えたといわれ、映画にもなった、たいへんな運動になったのですね。ところで自分自身も農家の長男で農家の大変さがよくわかっています。多くの農家は跡継ぎ問題など、同じ悩みを持っている方が多いと思います。これからの農業はどうあるべきだと思いますか。従来からの農家への一言を。

足立原 ほんとに一言になりますが、あたかも身分制時代のような世襲・生業的な農家農民型農業からの脱皮です。

野開 現在、県立大学は時代の流れに沿った学部の再編で各学科の名称も大きく変わっています。建物も変わっていき、短大時代の面影がなくなりつつあります。この対談の結びに、先生から同窓生・在学生に何かメッセージをいただきたいと思いますが。

■ 富山に来たからこそ出会った人たち

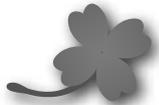
足立原 80歳代になってから、はや6年。折々、ふつと自分に問いかけます。「ぼくは、この世に何をしにきたのだろう」、その答えの一つが「この人たちに会うために来たのだ」です。富山に来たからこそ出会った人たちとこういう人生を歩んで来たという思いです。

野開 本日はお忙しいところ、時間をとってくださり、ありがとうございました。今後とも同窓会に対しまして、いろいろなご意見・ご提案をいただきたいと思っています。

次世代へ継ぐ 「草刈り十字軍」

毎日新聞 2014年7月17日(木) 寄稿

足立原 貴



「きみ、青春の一夏、山に入って草を刈ろう」
全国の学生向けに、そう呼びかけて開始した私たちの実践を継続してきて、今夏、41年目になる。

自生した木々が繁る天然の森林でなく、人手で育てた苗木を植えて育成する人工の森林では、毎年適切な時期に、また、何らかの人手をかけねばならない。その一つに、成育初期の「下草刈り」がある。

各地の造営林で森林労働者激減の対策に、ヘリコプターによる除草剤散布が実施され始めていた1974(昭和49)年夏、富山県でも4カ町内の造林地で除草剤が空中散布されようとした。私たちは、散布対象地域内の廃村を拠点にその7年前から「地球を耕そう」を合言葉に、小集団の営農活動とともに土とつながる生存条件と生活価値の探求を目指す「人と土の大学」の開講をはじめ、一連の活動を続けていたため、猛反対運動を展開した。

しかし「森林の育成」は、遂行されるべき「天下の大事」でもあった。造林地の下草刈りは不可欠な作業である。コトは、反対だけで済まない。除草剤散布を中止させたとしても問題は解決しないだけでなく「森林の育成」という天下の大事の遂行に無頼な妨害を働いただけという結果に追いやられかねない。



反対運動の決め手は対案を示し、それを実践することだ。私は「夏休み中の学生たちの手による下草刈り」という対案を示した。「現代の荒野」を彷徨(ほうこう)する若者たちに自己啓発、自己鍛錬、価値の創造の場を提供。彼らが日常を脱する汗を流すことで森林作業の一端が達成されるとともに、反対運動のあり方に一石を投げようとするものだった。

「チエをかしたらチカラもかそう」という私の信条に共鳴してくれる人たちによる実践運動の開始であった。「草刈り十字軍」という名称は、当時の若者たちに人気があった「ザ・フォーク・クルセダーズ」にヒントを得てつけられた。

以後毎夏、全国から、ときには海外からの参加者を得て運動は継続してきた。40年間の作業面積延べ1800畝余という数字が示す森林業務への寄与は大きくなくても、住民運動の流れを変え、森林ボランティアのさきがけとなったと評価され、林政の多面的見直しを迫った起爆剤効果は小さくなかったであろう。

反対の意思表示に私たちはヘリコプターが飛び立つのを妨害したり墜落させようとしたり、除草剤の製造工場を爆破しようとしたのではない。除草剤を空中散布するような文明状況への異議申し立てに自分たちの身体を動かして草を刈った。

運動を継続して参加者の年齢の幅が広がり、いまや15～70歳代に及ぶ。生活スタイルも考え方も異なる者が日常性を脱し、力を寄せ合い励まし合って厳しい労働に汗を流す合宿は、互いの心の底にある善意や良心を目覚めさせ、我利を越えて他者のためにも尽くそうとする人物を育む場となる。草刈りに限らず広く森林整備の諸作業に汗を流す「手応えのある文明批評の実践」として次世代へつなぎたい。

総合建設コンサルタント



信頼のおける技術で社会に貢献する

株式会社 建成コンサルタント

代表取締役社長 瀬川 光太郎

本社 〒933-0014 富山県高岡市野村 284-1
TEL 0766(25)6097 FAX 0766(25)5697

…地域の未来をつむいでいきます…



株式会社 上智

代表取締役 金木 春男 取締役会長 楠 則夫

●測量・設計・補償・地籍調査 ●3DLレーザー計測・システム開発

本社 富山県砺波市千代176-1 TEL(0763)33-2085
支店 富山・石川・新潟・三重・あわじ・中四国 他

<http://www.johchi.co.jp>

株式会社 立山興産

代表取締役 黒川 浩正
(農業機械科 第1回卒)

富山市堀川小泉町 845-13
電話 (076) 422-2236(代)
FAX (076) 422-2509

業務内容 マンション賃貸業

「感謝」の気持ちと「技術」で応える
感動につながる仕事づくり



砺波工業株式会社

代表取締役社長 上田 信和

砺波市中央町3番21号 TEL(0763)32-3105

<http://www.tonamikogyo.co.jp>

足立原君という人

東京大学名誉教授・哲学 山崎 正一



足立原先生の著書『一つの社会の死から』（北日本新聞社・1975年）の出版に際し、恩師の山崎正一東京大学名誉教授の推薦の言葉。

その日、私は新学期最初の哲学の講義を終え、研究室にもどるため東大駒場キャンパス内を足早に歩いていた。突然、新生とおぼしき一人の学生が私の前に現れた。

「先生にお願いがあります。私は足立原貫という理科二類の学生です」

二十数年前の春のことである。当時、足立原君は紅顔の学生であり、私は四十歳まえの少壮教師であった。用件は、西洋の学問と教養との淵源であるギリシャ文化についての研究会（確か「東京大学エオリア会」と称した）をつくりたいので、その顧問教官になってほしいということであった。断る理由を見出せなかったので私は承諾した。これが私と足立原君とのつき合いの始まりである。

活動資金をつくるため、足立原君はダンス・パーティーを企画し、実行した。私は赤字を大いに心配する一方、この学生の行動力にひそかに驚嘆したことを憶えている。

足立原君はしばしば私のところへ訪ねてきた。そのある日、一冊の謄写版刷りの詩集を手にしてきた。木版画の表紙で「つみ木の塔から」と題され、美しいリボンで綴じてあった。作者は、「光原邦夫」とある。これが、足立原君のペンネームであった。

足立原君は、アルバイトで得た生活費を切りつめて、この詩集を百部作った。

木版画の表紙からガリ切り、印刷、リボン綴じの製本まで仲間たちが手伝ってくれ、そうして出来上がった百部を、胸を病んで療養中の若い人々へ郵便で贈ったのだという。「私も結核、長期療養したんです。いま、渋谷のハチ公前の郵便ポストへ全部投函してきました。先生にも一部差し上げます。」というのが、その口上であった。

いまにして思えば、「今日の足立原君」は、当時すでにスタートしていたことになる。ギリシャ文化の研究会に始まって、詩集「つみ木の塔から」に至り、足立原君は、まさに「在るべき足立原君」になりつつあったのであろう。「つみ木の塔から」は、その後、第二集、第三集と継ぎ、第五集か第六集かまで続いた。大地の土のにおいや、生命力への賛歌は、今日の足立原君の思想と行動に、まっすぐつながっている。以来、今日までの足立原君の生涯は、足立原君が、まさに、「在るべき足立原君」を自ら発見してゆく歴史であったというべきであろう。人は、その才能に最も適した職業を選ぶのがよい、な

どという俗説は、およそ足立原君とは無縁のものである。たとえ才能とういものがあるとしても、それが働かされなければ、その才能があることすらわかりはしない。才能とは、それ自身が働かされることによって発見され、形成されるものではないか。足立原君の活動と仕事とは、まさしく、そのことを示している。

足立原君は、すでに両親がなかったから、いくつもの家庭教師をひきうけたり、その他もろもろのアルバイトをやって自分の学費や生活費をまかない、そのみならず、看護学院に入学した妹の学費援助まで、一時やっていたようである。しかし、私の前に現れる足立原君は、いつも明るく潑刺としていて、苦学力行の士というような苦渋のかげは少しもなかった。

幼年時代からの土への夢を育てて農学部へ進学し、卒業の時は学部総代となって総長から卒業証書を受ける役目に当たったが、その際、晴れの大役に新調の制服を貸すという友人の申し出をことわり、いつも着ていたつぎはぎだらけのボロ制服で、ケロリとして卒業式に出席し、学部総代の役目をはたした。

卒業後、大学院を経て農学部附属農場につとめ、まもなく大分県の農業試験場に赴任した。九州へ行ってからも時々上京して姿を現したが、毎年、年末、東京芸術大学によって行われるヘンデルのメサイヤの演奏会には、どこにいても必ず、そのためだけにでも上京してきた。

それから三年余りして足立原君が富山県の技術短期大学に転任すると、そのまわりには、足立原君を慕う、志ある青年たちが集まってきた。そして、足立原君の農業の理念を实践する青年集団「農業開発技術者協会」が発足した。農業の新しい一方式を確立しようとするその活動は、展開されてゆく過程で次第に内容を深め、幅を広げ、やがて「人と土の大学」の開講となり、また「草刈り十字軍」の運動となった。その活動はすでに単なる農業問題のワクを超え、「農」の理念に基づく「文明批評の实践」の名にふさわしい事業となっている。足立原君が新聞や雑誌に小論稿を執筆するようになったのも、これらの実践活動が展開され始めたそのころからである。激しい行動の日々に生まれる論稿は、実践の積み重ねとともにその数を加えていった。このたび、それらの論稿が一冊の書にまとめられ「一つの社会の死から」として上梓されたのは、まことに喜ばしい。

足立原君が書くものには、常に首尾一貫した足立原哲学が展開されている。それは書齋の閑文字ではない。実践者の信念と情熱と人間味あふれる発言である。行動する足立原君の知性と生命のいぶきが、その行間に光り、躍っている。そしてその発言の一つ一つは、現代をさ迷う人々に、はなはだすぐれた参考となり、強いはげましともなる。それを読む人は、現代の盲点を自覚させられるのみか、自分も一つやってやろうという気持ちを抱かせられるに違いない。



情報システム工学科
中田 崇行(なかた たかゆき)准教授

インタビュー



社会のために情報技術を活かす

一多方面にわたり社会のために活躍しておられると伺いましたが

中田 始めに紹介するのは、いわゆる「おれおれ詐欺」を防ぐために、行政や防犯協会等とコラボしてチラシを配ったり、チラシのデザインを考えたりしました。クイズ形式のテレビゲームで体を使って考えてもらったりする啓蒙活動をやっています。地域の奥様方と大学生のコラボでは、寸劇を一緒にやることで多くの方の興味を持ってもらえたと思います。大学生が参加することで新しい展開も期待できます。

一映像がまるでそこにあるように見えるプロジェクトインタラクションというのですか、プロジェクトの映像とふれあう活動をされていますが

中田 川の駅新湊でやった活動ですが、水中を泳いでいる魚にふれ、ざるですくって、板に流し、実際に魚がいるように楽しめるもので、子どもさんに大変好評でした。このときは地元の新湊の大工さんや多くの方々の協力で出来ました。こちらは情報技術の専門でも、会場の設営等は地元でしてもらいました。

それが報道され黒部市から古い蔵があるのだけれど、そこで何かやって欲しいと依頼があり、ちょうど花火大会の日だったので子どもさんが動くことによって蔵の中で花火を体験できるプログラムを作成しました。昼は疑似体験の花火、夜は本当の花火体験という楽しい一日になりました。

富山県民会館や富山駅、富山県立大学などで、面白い映像をつかったイベントを行い多くの人に知ってもらい、そこから何かが生み出せるのではと考えています。

一そのような活動は無料でやっているのですか

中田 有料で引き受けています。専門的な情報技術を駆使していますので、その対価を頂いています。そうでなければ永く続けることが出来ないと思います。

一このような活動は学生団体「イメージトレイニー」の方が中心と聞きました

中田 一種の技術集団のようなもので、工学の専門の知識を使って社会に貢献しようとしている団体です。責任感があり意欲的な学生が集まっています。夢膨らませて大学に入ってきた学生が、興味をもちモチベーションをあげて、進んで研究して技術を向上させることは必要だと思います。「イメージトレイニー」を指導しているのは僕ですが、彼ら彼女ら

が自主的に取り組み進んでくればと思っています。

一「イメージトレイニー」がNPO法人きんたろう倶楽部と提携して「呉羽里山散策アプリ」を開発したそうですが

中田 これはきんたろう倶楽部さんからの要請で始めました。例えば新幹線で富山へ来た方が、里山を体験したいと思い。3時間あるとして、富山駅から呉羽山までタクシーで往復1時間、あとの2時間を呉羽山で過ごして里山の自然を楽しむときに、このアプリが活躍します。歩いていて現在地から、一番近いトイレやバス停までの距離がわかりますし、山道で迷いそうなどころでは360度風景見回し機能がついたりして快適に散策が出来るアプリです。目的地までの所要時間もわかり便利だと思います。

またファミリーパークへ遊びに来た子どもさんが、ついでに里山体験する時などに役立ちゲーム感覚で里山に親しんでもらえると思います。

一楽しそうなアプリですね。完全に実用化しているのですか

中田 始めたばかりで、使い勝手を向上させ、もっと多くの地形の情報をいれたり、毎年山道の情報を更新したりして、10年ぐらい続けば定着するのかなと思っています。使い勝手の向上のために、このアプリを子どもさんや親御さんと一緒に使ってもらい改善点を見つけたりしています。

一地域貢献の活動を続けておられるのは

中田 いま、学生たちが学習、研究している工学の技術が、どのような形で社会の役に立つかの一つの答えを見せられると思っています。

手短な問題を取り上げてそれを解決して、喜んでもらい、それがまたやりがいを引き起こし、進めていきたいと思っています。今は市町村単位での要望に応じているが、これを推し進めて、新しい展開を目指します。

インタビューを終えて

中田先生の研究室には、いろいろな物があり(変わった機械・なんに使うのか分からない物)、「ドラえもん」が全巻揃えであり、楽しい場所でした。ここから何か面白いことが生まれそうな雰囲気の研究室でした。



美に魅せられて20年

日本画家 今井準子さん
(大谷・応用数学科7回生)



応用数学科7回生の今井準子さんは県庁勤めの傍ら、自己流の油絵を毎年1枚ずつ描いて15年ほどたった、1996(平成8)年、砺波市働く婦人の家での日本画教室に誘われたのが日本画との出会い、そして日展会友の紫藤孝先生(砺波市在住)との出会いでもありました。初めて描いた庭先の「すずらん」は、分からないなりに一生懸命描いた作品で特別な思いがある。始めは周りの草花を多く描いたが、習い始めて5年頃から大きな作品に取り組むようになり、市展、県展、勤労者美術展やアートフェスタ等の公募展に応募、各種の展覧会に出展した。市展大賞、富山県美術展入選、越中アートフェスタ入選等受賞歴が多数ある。

画業20周年を記念して砺波地方ゆかりの作家を紹介する「となみ野アート」今井準子日本画展「日本画を描いて～20年の歩み～」(北日本新聞社主催)が北日本新聞社砺波支社ギャラリーで1月27日～2月5日開催された。千人を超える入場者が訪れ好評

のうちに幕を閉じた。それを記念して画集「日本画を描いて～20年の歩み～」(A4判・54ページ)を出版した。

今井さんは「年間3作品ぐらいのペースで作品を仕上げて、最近では旅に出て心に残った風景等を題材に作品を作ることが多いが、雪国に住んでいるので雪をテーマにした作品を仕上げ、これからも精進を続けたい」と語る。人権擁護委員等多方面で活躍、夫は今井秀昭氏(草農業科1回生)。本誌19ページの今井秀昭氏寄稿文も是非ご覧ください。



すずらん



山里の秋



個展会場で今井準子さん(左)、紫藤孝先生(中央)今井秀昭氏(右)

私の好きなもの

磯部 貴弘 (いそべ たかひろ)

院生物2期生

①バドミントン

小学生から始め、約30年経ちます。現在は、地元中学校のコーチをしています。コーチを始めて、約10年になりますが、教え子と一緒にバドミントンをしたり、食事に行ったりするのが楽しみです。昨年の12月には、リオオリンピックメダリストの試合を観戦してきました。

②買い物

県外へ出かけた時など、いろいろな店を歩き回り、今話題の商品や珍しい物を探し、お土産として買うのが楽しみです。普段は、ネットで購入することが多くなりましたが、自分が納得いくものを見つけるまで探し続けます。

③書店めぐり

最近のお気に入りの書店は、東京駅丸の内北口に

ある丸善・丸の内本店です。書籍の品揃えはもちろん、文房具などもたくさんあり、出張の際に時間があればほとんどといっていいくらい足を運びます。
<近況>

週に2日はバドミントンのコーチ、その他に月に1日は学会の委員会活動で東京と大阪へと仕事以外でもそれなりに忙しい日々を過ごしています。体調管理に気をつけ、仕事、プライベート共にがんばりたいと思います。



最近、東京へ行った時に撮影 ▶



総合建設業

ISO 9001 BUREAU VERITAS Certification

株式会社 婦中興業

代表取締役社長 竹内 茂

〒939-2706 富山県富山市婦中町速星478番地
TEL (076)466-2333(代) FAX (076)465-5392

みんなの
よい食
プロジェクト

しよく

富山県JAグループ

研究室の近況案内

環境・社会基盤工学科

資源循環工学・環境政策学講座

佐伯 孝 講師

環境基本計画において、持続可能な社会を、「低炭素」・「循環」・「自然共生」の各分野を統合的に達成することに加え、「安全」がその基盤として確保される社会であると位置づけています。「循環」とは「循環型社会」のことで、佐伯研究室では、循環型社会の構築を目指し、「物質循環」「環境負荷評価」「廃棄物」を研究キーワードに、廃棄物をリサイクルすることは本当に環境への負荷が少なくなるのか、廃棄物の流れの見える化などを行っています。最近では、災害時に発生する廃棄物である「災害廃棄物」を対象とした研究や太陽光パネルなどの複合廃棄物のリサイクル技術の研究も行っています。

リサイクル製品の評価では、今までに評価したいくつかの製品では、リサイクルすることで天然資源を用いた製品よりも環境への負荷が大きいものがありました。評価の過程でどのプロセスが多く、どの負荷を排出しているかが分かりますので、プロセスの改善により環境への負荷を減らすことが可能でした。

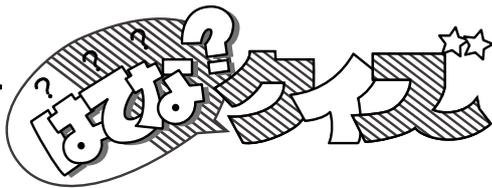
災害廃棄物を対象とした研究では、東日本大震災、広島土砂災害、熊本地震等の被災地においてどのように廃棄物が被災地から排出され、処理されているのかを実際の被災地において調査を行っており

ます。写真は、熊本地震の被災地における廃棄物の処理現場です。

本研究室の研究は、どの研究にも関係することですが、目の前にあることだけ見て研究したのでは良い結果は得られません。物事を俯瞰的に見てそれぞれの関係性について把握することで研究が進み、良い結果が得られます。研究室の学生には、俯瞰的に物事を見る力を身につけて欲しいと思っております。



熊本地震の被災地における廃棄物の処理現場



富山県立総合衛生学院の前身、富山県立中央病院附属高等看護学院が設立された年は？（21pを参照）

答えは 昭和〇〇年

☆はがきで下記のあて先へ答えと住所・氏名を書いて応募下さい。正解者10名に図書カード(500円)進呈。正解者多数の場合は抽選とします。締切8月末(当日消印有効)。答えと一緒に「千瓢」の感想も書いて下さい。メールでの応募、同封のはがきでの応募いずれも可。

〒939-0398 富山県射水市黒河
富山県立大学内「千瓢」編集部
E-mail senpyokai@pu-toyama.ac.jp

「千瓢」11号クイズ当選者発表

<第11号クイズ>

「千瓢」で今号から連載が始まる、コラムのタイトルは？

答えは 3冊の本です。

正解者は以下の方々です。(敬称略) 図書カードをお送りしました。おめでとうございます。

溝口 純 谷村 実 北林 恒好
舘 身果 早川 俊一



材料設計加工学講座

鈴木 真由美 教授

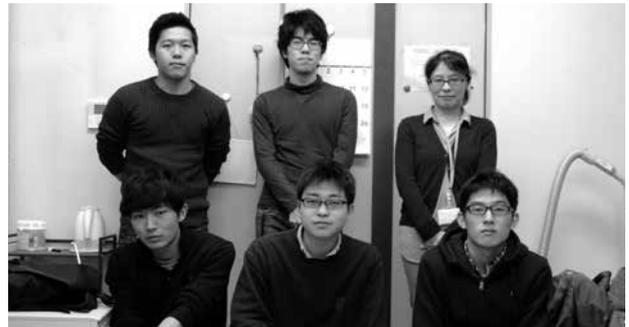
本講座は6つの研究室で構成されていますが、本研究室ではマグネシウム合金・アルミニウム合金に代表される、金属の中でも比重の軽い金属材料を主に対象とした研究を行っています。

研究テーマとしては、「硬質・軟質相を有するマグネシウム基合金の積層構造制御と格子回転制御による高強度化」、「微細規則構造相分散による組織変化と強化機構」、「超微細粒を有する軽金属材料の力学的特性」など、金属材料の性質の中でも特に強度や伸びといった力学的性質に注目し、材料の基礎的な力学特性の理解から、新規材料開発に渡る幅広い内容を取り扱っています。それぞれのテーマに応じ、富山県工業技術センターや富山県内外の企業や他大学の先生方と連携研究・共同研究を進めております。金属材料の強度や変形にご興味ございましたらお気軽にお声がけ頂けますと幸いです。

近年の金属材料分野の研究開発動向は循環型社会を意識し、従来型の化学組成の調整に頼るだけでなく、材料に適切な変形や熱を加え、金属内部の結晶方位や格子欠陥などの微細構造をコントロールすることで材料の高性能化・新規特性の探索を図る方

向へ転換しようとしています。それに伴い、材料を分析するスケールもマイクロメートルからナノメートルレベルへ進化し、本研究室における研究の現場でも金属材料の微細構造の観察や高度な解析に対応した装置や手法を用いることが増えています。

一方で、金属材料を構造物として利用するためには、十分な大きさの物体の内部に意図した微細構造が狙い通りに構築されていなければなりません。マクロ～ナノスケールまで、工学的視点に立ったバランスの取れた研究を目指すと共に、機械系の基礎と材料のセンスを兼ね備えた学生を送り出せる研究室でありたいと考えています。



研究室集合写真

植物機能工学講座

加藤康夫教授、野村泰治准教授、北岡直樹助教

我々の研究室は、生物工学科棟一階に位置しており、構成メンバーは、教員3名、博士研究員1名、大学院生（修士課程）、学部生（4年、3年）からなっています。講座が出来て12年目の今年、新しい助教と初めての博士研究員の採用という大きな変革を行い、世界の植物生化学を牽引すべく構成員全員大いに意気込んでいる次第です。

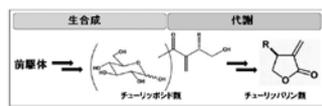
当研究室は、植物工学、生化学、有機化学、分子生物学、微生物学といった各分野の技術を複合的に用いて、植物が生産する有用二次代謝産物の生合成機構と生理学的意義を解明するとともに、そういった基盤研究の成果を応用して、目的の有用物質を効率的に生産する技術開発に取り組んでいます。加えて、植物を利用した環境浄化やバイオエネルギー生産への応用研究も行っています。研究内容について、現在我々が主要テーマとして取り組んでいるチューリップを例にとり簡単に説明します。

富山県の県花であるチューリップの各組織中には二次代謝物としては驚くほどの高含量（乾燥重量で数～10%）でチューリップポシド類が存在しています。私たちは生化学的アプローチにより、この化合物はチューリップ組織内において酵素反応により、強い抗菌活性を示すチューリップパリン類（ α -メチレン- γ -ブチロラク톤の一種）に変換され抗菌作用を発現していることを世界で初めて解明しました。本変換系はチューリップの耐病性に関与し

ているものと考えられますが、チューリップポシド含有量が極めて高いことや、蓄積される化合物種が組織や生育時期によって大きく異なることから、耐病性だけでなく、その他にも生理学的に重要な役割を担っている可能性が考えられます。現在、チューリップポシド/チューリップパリン類の生合成経路とその発現調節機構の解明、耐病性機構と新たな生理学的機能の解明、といった基礎研究、ならびに医薬品、化粧品原料などチューリップパリン類の新規機能性物質としての利用を目指した応用研究を行っています。

これからも研究室構成員全員で一緒に泣いたり笑ったりしながら、人類および地球の役に立つような植物機能の開発研究を進めて行こうと思っています。

1. チューリップに存在する抗菌物質の生合成経路と生理学的役割の解明や、バイオプラスチック原料など新規機能性物質としての応用を目指しています。



チューリップ組織を原料とした酵素変換による、抗菌活性物質「チューリップパリンB」の製造プロセスの開発。



2. タケの培養細胞における二次代謝機構の解明や、有用物質生産への利用、タケの木化メカニズムの解明を進めています。



タケ培養細胞の主要二次代謝産物としてフェルロイルピテロインを特定した。外来の二次代謝生合成酵素を遺伝子組換えによって導入することで、タケ培養細胞には元々存在しないフェルロイルピテロインを主要二次代謝産物として大量に蓄積させることに成功した。

3. 有用抗菌成分の有効生産や、生体触媒利用を目的とした経路解析の探索を進めています。



情報基盤工学講座

榊原 一紀 准教授

榊原研究室は2013年に情報システム工学科にて発足し、丸4年が経ちました。発足時から一貫して、人間-機械系あるいは人コミュニティを前提としたシステム・モデリングの方法論を確立すべく活動してきました。この4年間に対象としてきた「システム」は、物流、生産スケジューリング、スマートグリッド、都市交通、大学補講時間割、セミの進化プロセスなど、最近では、地域観光、サーマルグリッド、社会意識形成、スーパーマーケットなど多岐にわたります。

工学研究は（科学研究と異なり）特殊性の中に普遍性を見出すことである、とも言われますが、私達のスタンスとしては、上に挙げた個別課題の特殊性を重視しながら、システム・モデリングの普遍的な規範の構築を目指してきました。一方で周囲からは必ずしもそのようには理解されていないようで、同じ学科の中村正樹先生から「榊原研は工学的応用に主眼をおいている」と評されたこともあります。未だ私達が普遍性を提示できていない、ということでしょう。

世の中に目を向けると、サイバー・フィジカル・カップリング（情報空間と現実空間の結合）を目指した情報技術の急速な進展に伴い、システム・モデリングの重要性は高まる一方です。情報空間に構築

された「バーチャル」がリアリティ（本物性）を獲得するためには、サイバーとフィジカルの界面としてのシステム・モデルが明確に構築されている必要があります。すなわち、システム・モデルが十全に用意されていなければ、バーチャルは情報技術屋の自己満足となりかねません。私達の研究室も本学の情報技術の専門家と協働しながらサイバー・フィジカルの界面としてのシステム・モデルを構築していきたいと思っています。

榊原研究室では、これまで計16名の学生が上記のような活動をしてきました。彼らの人生において、この研究室で考え、議論した日々が、一人ひとりにとっての普遍的な基盤となることを願ってやみません。



知的インタフェース工学講座

中井 満 講師

私達は何気なく声を聞き、文字を読み、身振りを理解するということを日常的に行っています。この知的な機能（パターン認識）をコンピュータで処理すること、それが私の研究室で扱う知的インタフェースです。学生時代に会ったテーマが音声認識ということもあって、時系列の信号を扱ったパターン認識を中心に研究しています。

本研究室のスタートは本学科が開設された2006年です。それ以前に筆跡を見ずに書いた文字や視覚障害者が書いた文字、いわゆる字形の崩れた文字を認識する技術を開発していましたので、これを応用して、空中に書いた見えない文字の認識を始めました。初年度の卒研究生は、指先の磁石を手首の磁気センサーで検知して空中の筆跡を得るという方式でしたが、その後、ジェスチャーインタフェースが普及して様々な信号を利用できるようになりました。Wiiの加速度・角速度信号、KinectやLeap Motionの空間座標信号、Myoの表面筋電信号などです。本学科の学生ならば、研究室探訪で皆が体験しているので、「Wiiリモコンを振り回して文字を書いている研究室」で思い出すのではないのでしょうか。現在は「何の文字を書いているか」だけでなく、「誰が書いているのか、本人が書いているのか」というバイオメトリクス認証の研究も展開しています。国際

会議や全国大会で受賞するくらいに学生が頑張っています。

さて、研究室のスタートから10年が経ちました。この間に、21人が卒業し、うち9人が大学院を修了しました。平成29年度はM2が1人、M1が1人、B4が2人のメンバー構成になります。少人数なので、諸々のイベントは同講座の他研究室と合同です。千瓢・第8号（2013年発行）の高木研の合宿の写真に中井研も写っています。研究室単独では、ダ・ヴィンチ祭（8月）、忘年会（12月）、送別会（3月）の時期にOB会を開いています。研究室のLINEグループでは、時々、近況を送っています。繋がらないOBもいますので、これに気付いて連絡をもらえたら嬉しいです。



2016年3月のOB会
(中井はカメラマンなので写っていません)



2016年度のメンバー
(中井は後列右端)

大学ニュース

役職教員

- 理事長 寺井 幹男
- 学長 石塚 勝 教授
- 副学長・工学部長 森 孝男 教授
- 学生部長 中島 範行 教授
- 副学生部長 鈴木真由美 教授
- 工学部
 - 教養教育主任教授 石森 勇次 教授
 - 機械システム工学科主任教授 川上 崇 教授
 - 知能デザイン工学科主任教授 高木 昇 教授
 - 電子・情報工学科主任教授 鳥山 朋二 教授
 - 生物工学科主任教授 伊藤 伸哉 教授
 - 環境・社会基盤工学科主任教授 渡辺 幸一 教授
 - 医薬品工学科主任教授 榎 俊之 教授

昇任

- 工学部
 - 教養教育 戸田 晃一 教授
 - 機械システム工学科 鈴木真由美 教授
 - 真田 和昭 教授
 - 宮島 敏郎 准教授
 - 大嶋 元啓 講師
 - 中村 正樹 准教授
 - 環境・社会基盤工学科 嶋 俊郎 教授
 - 古谷 元 准教授
 - 星川 圭介 准教授
 - 生物工学科 生城 真一 教授
 - 野村 泰治 准教授
 - 医薬品工学科 米田 英伸 教授
 - 竹井 敏 教授

新規採用

- 工学部
 - 教養教育 杉山 弘晃 准教授
 - 谷田 博司 准教授
 - 山村 正樹 准教授
 - 鈴木 浩司 准教授
 - 碓井エリザベス 特任講師
 - 寺島 修 講師
 - 清家 美帆 助教
 - 知能デザイン工学科 伊藤 聡 准教授
 - 佐保 賢志 講師
 - 森川 大輔 講師
 - 玉本 拓巳 助教
 - 電子・情報工学科 奥原 浩之 教授
 - 小島 千昭 講師
 - 木下 史也 助教
 - 環境・社会基盤工学科 脇坂 暢 准教授
 - 占部 大介 教授
 - 日比 慎 准教授
 - 大島 拓 准教授
 - 北岡 直樹 助教
 - 医薬品工学科 河西 文武 講師

退職

*平成 29 年 3 月 31 日をもって退職されました。
長い間お疲れ様でした。

バデューチ・ドミニク 先生
平成 8 年 4 月～平成 19 年 3 月 教養教育助教授
平成 19 年 4 月～平成 29 年 3 月 教養教育准教授

中村 清実 先生
平成 4 年 4 月～平成 11 年 3 月 知能工学科助教授
平成 11 年 4 月～平成 29 年 3 月 知能工学科教授

松本 和憲 先生
平成 2 年 4 月～平成 19 年 3 月 知能工学科助教授
平成 19 年 4 月～平成 29 年 3 月 知能工学科准教授

プレゼント 3名様



読者の方 3 名に「県大セット」富山県立大学の校章入りせんべいと、ボールペン、バッジをセットにしてプレゼント。「県大セット」希望と書いてはがきかメールで申し込んで下さい。

〒 939-0398
富山県射水市黒河 富山県立大学内 「千瓢」編集部



広告掲載企業一覧

株式会社建成コンサルタント、株式会社上智、株式会社新日本コンサルタント、株式会社立山興産、株式会社中部設計、株式会社寺島コンサルタント、株式会社婦中興業、株式会社松村精型、心彩、三協立山株式会社、水機工業株式会社、竹沢建設株式会社、砺波工業株式会社、富山県農業協同組合中央会、山本理化



探しています

住所をお知らせ下さい。(会員住所不明者の一覧です。)

安達真澄 (大谷1機械)	石黒 仰 (大谷3農機)	富飯田浦小久 (大谷9応数)	日南明美 (大谷6衛工)
池上忍 (大谷1機械)	竹田陸郎 (大谷3農機)	田島中田由紀子 (大谷10応数)	南田辺木野木場木 (大谷6衛工)
野崎健 (大谷1機械)	竹鼻義之 (大谷3農機)	惠健弘 (大谷10応数)	堀渡八細八馬牛 (大谷6衛工)
藤井義明 (大谷1機械)	上原勇作 (大谷4農機)	子治子 (大谷10応数)	南田木野木場木 (大谷6衛工)
笹岡正保 (大谷2機械)	市山健作 (大谷5農機)	典子 (大谷10応数)	八馬牛 (大谷6衛工)
田中国男 (大谷2機械)	金子論弘 (大谷5農機)	恵子 (大谷11応数)	八馬牛 (大谷6衛工)
中島知久平 (大谷2機械)	金子行 (大谷7農機)	百合子 (大谷11応数)	馬牛 (大谷6衛工)
川波俊夫 (大谷3機械)	西田正行 (大谷7農機)	生光 (大谷12応数)	午房崎隆 (大谷7衛工)
神藤哲志 (大谷3機械)	山崎博夫 (大谷8農機)	山本内武小 (大谷12応数)	高鈴桑木下 (大谷7衛工)
齊藤徳文 (大谷5機械)	山崎博夫 (大谷9農機)	小竹内山 (大谷14応数)	鈴木松柴久美子 (大谷8衛工)
藤平勝一 (大谷5機械)	池井信正 (大谷10農機)	荒井直美 (大谷16応数)	佐伯信也 (大谷9衛工)
山崎慎一 (大谷5機械)	川村久則 (大谷10農機)	村野智志 (大谷17応数)	加納安則 (大谷10衛工)
北村芳文 (大谷6機械)	田中和彦 (大谷10農機)	石島千里子 (大谷17応数)	武田口八重子 (大谷10衛工)
渋谷静雄 (大谷7機械)	中川太一 (大谷10農機)	常田慶子 (大谷18応数)	砂岩白光純子 (大谷11衛工)
久湊弘 (大谷7機械)	松浦茂孝 (大谷11農機)	久保谷潤子 (大谷18応数)	庄司利昭 (大谷13衛工)
沢井登 (大谷8機械)	小倉正夫 (大谷13農機)	田美津子 (大谷18応数)	中野山内賀世 (大谷14衛工)
武内清好 (大谷8機械)	小川進一 (大谷13農機)	不破好朗 (大谷18応数)	谷内田深雪 (大谷14衛工)
榎進 (大谷12機械)	小久保優二 (大谷18農機)	日榎井田若葉 (大谷20応数)	吉岡田幸嗣 (大谷15衛工)
牧野栄昭 (大谷12機械)	村上善一 (大谷19農機)	魚倉井原江橋多海高野 (大谷25応数)	上田添本石道吉牧林 (大谷20衛工)
浅井勝史 (大谷13機械)	岩木子篤一 (大谷23農機)	松本土多海高野 (大谷25応数)	田畝石道吉牧林 (大谷20衛工)
大畑正美 (大谷13機械)	垣地昭一 (大谷23農機)	山本橋多海高野 (大谷25応数)	石道吉牧林 (大谷20衛工)
篠原秀利 (大谷13機械)	折谷政明 (大谷24農機)	野田智美 (大谷25応数)	林石黒林乃里子 (大谷21衛工)
永原正昇 (大谷15機械)	折谷政明 (大谷24農機)	山本智美 (大谷25応数)	梅水鈴谷永川大倉山田大 (大谷24衛工)
栗中埜博之 (大谷15機械)	折谷政明 (大谷24農機)	小林悦子 (大谷26応数)	木崎友香 (大谷23衛工)
青山栄治 (大谷16機械)	加納功春 (大谷25農機)	村上千賀子 (大谷26応数)	永川大倉山田大 (大谷24衛工)
飯野敏雄 (大谷16機械)	長谷川利久 (大谷25農機)	萬里小路弘知 (大谷26応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
西田武国 (大谷16機械)	山本善修 (大谷27農機)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
山田正雄 (大谷17機械)	横山雄一郎 (大谷27農機)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
田畑仁 (大谷18機械)	横山雄一郎 (大谷27農機)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
国谷春名 (大谷19機械)	吉崎博典 (大谷28農機)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
岩村純一 (大谷20機械)	岡本義典 (大谷28農機)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
沢田孝一 (大谷20機械)	田村克巳 (大谷28農機)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
屋敷一治 (大谷20機械)	中田教子 (大谷1応数)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
高森辰仁 (大谷22機械)	堀江時子 (大谷3応数)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
柳上泰彦 (大谷24機械)	清水緋奈子 (大谷4応数)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
飯沢直樹 (大谷25機械)	吉田歌子 (大谷5応数)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
井澤和央 (大谷25機械)	ロンゲド さち子 (大谷5応数)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
市川雄一 (大谷25機械)	安藤やす子 (大谷6応数)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
高畑一宣 (大谷26機械)	森山順子 (大谷6応数)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
竹田中敏晴 (大谷26機械)	須藤章子 (大谷6応数)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
今城守博之 (大谷27機械)	麻生正子 (大谷6応数)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
北本敏弘 (大谷27機械)	斎田知枝子 (大谷7応数)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
清水健一 (大谷27機械)	川嶋輝子 (大谷7応数)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
高森雅人 (大谷27機械)	竹田喜代子 (大谷7応数)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
米田亮 (大谷27機械)	熊木恵子 (大谷7応数)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
大角将義 (大谷28機械)	宮地栄子 (大谷7応数)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
米道貴広 (大谷28機械)	小倉志津子 (大谷8応数)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
西林宇裕 (大谷28機械)	宇野順子 (大谷8応数)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
湊強志 (大谷28機械)	成瀬君代 (大谷8応数)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
柳浜雄一 (大谷28機械)	中嶋洋子 (大谷8応数)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
大場信雄 (大谷2農機)	岡崎よしの (大谷9応数)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)
	山本宏子 (大谷9応数)	岡本麻記子 (大谷28応数)	大倉山田大 (大谷24衛工)

次ページにつづく

柴田洋二 (大1998 機械)	田嶋英一 (大2004 機械)	武部英明 (大1996 電子)	有田聰 (大2004 電子)
下村幸司 (大1998 機械)	田嶋正一 (大2004 機械)	木村澤本 (大1996 電子)	丸格樹 (大2004 電子)
高田輝之 (大1998 機械)	北莊下 (大2004 機械)	深吉渡池上 (大1996 電子)	小林内新 (大2004 電子)
鍋島良美 (大1998 機械)	青山塚 (大2005 機械)	本辺田 (大1996 電子)	竹内新岡 (大2004 電子)
則武山和 (大1998 機械)	赤鵜江 (大2005 機械)	池田 (大1996 電子)	中波上野 (大2004 電子)
平山田尚 (大1998 機械)	江口 (大2005 機械)	上田 (大1997 電子)	波上野 (大2004 電子)
丸山田浩 (大1998 機械)	越前 (大2005 機械)	牛越 (大1997 電子)	藤田 (大2004 電子)
山田邊一 (大1998 機械)	奥堂 (大2005 機械)	大鈴 (大1997 電子)	林前 (大2004 電子)
渡木謙太郎 (大1998 機械)	桶倉 (大2005 機械)	木井 (大1997 電子)	藤前 (大2004 電子)
高野修 (大1999 機械)	倉谷 (大2005 機械)	永名 (大1997 電子)	前田 (大2004 電子)
上野拓 (大1999 機械)	笹本 (大2005 機械)	倉岡 (大1997 電子)	両角 (大2004 電子)
金森藤元 (大1999 機械)	橋堀 (大2005 機械)	岡本 (大1997 電子)	荒井 (大2005 電子)
佐鈴木直 (大1999 機械)	野今 (大2006 機械)	山福藤伊 (大1997 電子)	井原 (大2005 電子)
竹西中川 (大1999 機械)	西谷 (大2006 機械)	浪東 (大1997 電子)	浦野 (大2005 電子)
宮室谷武 (大1999 機械)	原 (大2006 機械)	井上 (大1998 電子)	川島 (大2005 電子)
山本博久 (大1999 機械)	林吉野 (大2006 機械)	上内 (大1998 電子)	京桐 (大2005 電子)
米田純一郎 (大1999 機械)	原西田 (大2006 機械)	浦林 (大1998 電子)	田本 (大2005 電子)
辻井俊朗 (大2000 機械)	西垣深 (大2007 機械)	大重 (大1998 電子)	中山 (大2005 電子)
浅田徹志 (大2000 機械)	明地金 (大2007 機械)	神菅杉東 (大1998 電子)	納村 (大2005 電子)
小栗山拓隆 (大2000 機械)	楠本 (大2008 機械)	大井 (大1998 電子)	乘松 (大2005 電子)
佐々木橋大 (大2000 機械)	西任 (大2008 機械)	大迫 (大1998 電子)	橋弘 (大2005 電子)
高橋紀子 (大2000 機械)	水野 (大2008 機械)	岡野 (大1998 電子)	松田 (大2005 電子)
竹腰敏乙 (大2000 機械)	井手 (大2009 機械)	尾塩藤高 (大1998 電子)	水谷 (大2006 電子)
寺島幸敦 (大2000 機械)	辻部 (大2009 機械)	加高竹西 (大1998 電子)	松永 (大2006 電子)
新八居佳平 (大2000 機械)	相砂 (大2009 機械)	竹山口 (大1999 電子)	池田 (大2006 電子)
安井利明 (大2001 機械)	中山野 (大2009 機械)	内山 (大1999 電子)	池田 (大2007 電子)
岡村仁康 (大2001 機械)	平野友 (大2009 機械)	林内 (大1999 電子)	鬼頭 (大2007 電子)
葛原里香 (大2001 機械)	水谷佐 (大2009 機械)	寺田 (大2000 電子)	菰原 (大2007 電子)
山崎浩平 (大2001 機械)	佐賀内 (大2010 機械)	中田 (大2000 電子)	杉山 (大2007 電子)
井藤勇二 (大2002 機械)	川坂 (大2011 機械)	野村 (大2000 電子)	竹内 (大2007 電子)
上田覚児 (大2002 機械)	小戸 (大2011 機械)	前田 (大2000 電子)	林古 (大2007 電子)
須加淳一 (大2002 機械)	森田 (大2011 機械)	增松 (大2000 電子)	谷木 (大2008 電子)
寺岡村 (大2002 機械)	荒垣 (大2012 機械)	寺崎 (大2000 電子)	平井 (大2008 電子)
野村山居 (大2002 機械)	西丹 (大2012 機械)	渡部 (大2000 電子)	古谷 (大2008 電子)
廣居弘明 (大2002 機械)	麻生 (大2013 機械)	稻本 (大2001 電子)	見津 (大2008 電子)
三村上原 (大2002 機械)	武高 (大2013 機械)	北嶋 (大2001 電子)	山本 (大2008 電子)
伊尾関 (大2003 機械)	高水 (大2013 機械)	堀井 (大2001 電子)	渡邊 (大2008 電子)
酒井豊人 (大2003 機械)	勝奥 (大2013 機械)	伊東 (大2002 電子)	毛見 (大2009 電子)
谷山村 (大2003 機械)	奥道 (大1994 電子)	黒田 (大2002 電子)	小竹 (大2009 電子)
中島仁亮 (大2003 機械)	杉山 (大1994 電子)	清水 (大2002 電子)	野原 (大2009 電子)
新林寛之 (大2003 機械)	渡邊 (大1994 電子)	田知 (大2002 電子)	梁木 (大2009 電子)
平池哲哉 (大2003 機械)	大畑 (大1995 電子)	辻宮 (大2002 電子)	高橋 (大2009 電子)
宮崎千佳 (大2003 機械)	佐伯 (大1995 電子)	山崎 (大2002 電子)	田島 (大2009 電子)
宮森弘隆 (大2003 機械)	高柳 (大1995 電子)	山口 (大2002 電子)	陳羽 (大2009 電子)
森岡聖人 (大2003 機械)	皆川 (大1995 電子)	奥野 (大2003 電子)	根後 (大2009 電子)
山崎立亮 (大2004 機械)	生地 (大1996 電子)	岩本 (大2003 電子)	兵松 (大2009 電子)
河北野圭 (大2004 機械)	加藤 (大1996 電子)	大原 (大2003 電子)	孟吉 (大2009 電子)
近出智弘 (大2004 機械)	加門 (大1996 電子)	岡上 (大2003 電子)	重川 (大2010 生物)
藤泰裕 (大2004 機械)	柴砂 (大1996 電子)	前田 (大1996 電子)	新川 (大2011 生物)
			黒川 (大2011 生物)
			野中 (大2011 生物)
			川上 (大2012 生物)
			高橋 (大2012 生物)
			花房 (大2012 生物)
			藤原 (大2012 生物)
			細川 (大2012 生物)

次ページにつづく

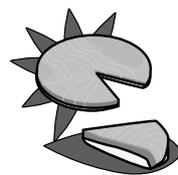
Table listing names and affiliations of members, organized by graduation year and department. Includes a legend for '短6環境' (Short 6 Environment) and a notice about the '同窓会名簿' (Alumni Directory).

※()内について
(短6環境)
| 学科名
| 卒業回
技・・・技術短大
短・・・短期大学部
大・・・工学部
院前・・・大学院前期
院後・・・大学院後期
お友達のお名前がありましたら住所をお知らせ下さい。



同窓会名簿を発行
平成17年に短大部(千瓢会)と工学部(工学部同窓会)の同窓会が合併して富山県立大学同窓会が生まれました。合併10周年を記念して「富山県立大学同窓会会員名簿(A4版303P・平成27年8月15日)を発行しました。名簿作成の途中で、不明会員の方が多く判明しました。今号でも「探しています」欄で不明会員を載せています。知り合いの方が見つかりましたら、事務局まで連絡して下さい。

「エトワール会」訪問記



同窓会副会長 須田正樹（電子1995年卒）

多くの卒業生が恩師を囲み、賑やかで懐かしさに満ちあふれた同窓会であり続けるためには、参加者が最多数となる開催地・時期を選定することが重要だと考えている。

そのヒントを見つけるため、関東の「エトワール会」に荒木相談役と参加させて頂くことになった。「エトワール会」は関東在住の卒業生が集まる会で、その存在は数年前から総会でもよく話題に挙がっていた。当日は会場となる横浜のホテルで会の世話人・澤さんと待ち合わせた。エトワールという優雅な名称は、当時集まっていた喫茶店の名前に由来するようだ。今回、食事はレストランのブッフエスタイルのため、隣には一般のお客さんが普通に座っている。乾杯の発声で幕が上がると、会えなかった時間を取り戻す勢いも手伝って、雰囲気はすぐさまトップギアに入った。

両手に赤と白ワイン、頭の上にはビール瓶とウーロン茶をのせて参加者全員の元を回り、歓談させて頂いた。「富山から2人も参加してもらった」と大喜びされた。目の前では荒木相談役が飲んで、笑って、背中を叩かれて大変忙しそう。私は会員の皆様全員と初対面だったが、全く心配していなかった。小杉の黒河地区にずっと前からある学校が母校という共有財産があったからだ。

会の中盤にこれまでの同窓会誌でエトワール会に関連した記事だけを選びすぐり、まとめた「ベスト版」をお配りした。荒木事務局長が膨大な資料から探し、池上理事の監修で作成して頂いた。賑やか続きで進んでいた会も「ベスト版」を手にし、目を通して間だけは時間が止まっていた。皆、穏やかな表情で目を通して。間もなく、自身や友達の記事・写真を見つけては歓喜の声があがり出した。「自分たちのために丁寧に時間をかけて調べて

もらったのがよく伝わってきた。こういうのが一番嬉しい。」言われたこちらはもっとうれしかった。

富山から持ってきたタスキが手渡った瞬間を感じた。この他に以下の3点セットを受け取って頂いた。どれも当時の自身・母校・富山での思い出や記憶を甦えらせ、ご家族や親しい方に話すきっかけになれば、との思いがあった。(1) マス寿司・・・コンパクトなプチサイズだけど、笹で包んだ寿司は木枠に納まっている。‘切り分ける’という食べる前の儀式をあえて楽しんで頂きたかった。(2) 富山のくすり・・・昔と変わらない昭和らしいレトロなデザイン。中身は本物で効用もあるが、使わないことに越したことはない。自然食があれば薬要らず。(3) 百貨店の紙袋（非売品）・・・薬にはオマケが付きものと考え、一度は足を運んだことがある百貨店のシンボルマークが入っている。テレビCMで一度は耳にしたことがあるフレーズ。「♪心と心、笑顔と笑顔・・・♪」

今回のご縁もこれからがスタートだと思っている。今度は富山でお返しする番だと思っている。お世話になった11名に限らず、「エトワール会」メンバーが来県する機会には「ベスト版」作成スタッフ、「3点セット」考案スタッフを紹介する事ができたらどんなに楽しいか、と夢を膨らませている。平成29年度同窓会に荒木相談役と須田の2名は「エトワール会」として参加予定。なんとこの2名は既にエトワール会の会員名簿に登録済みなのです…。大役を背負って探しに行ったヒントだが、富山に戻ってからバッグや財布の中を探してみたがどこにも見当たらない。どうやら2次会で立ち寄った、横浜港に面した屋外カフェに落としてきた様だ。落とし物は「エトワール会」の皆さんと一緒に探に行きたい。



前列左から4番目：荒木前会長 後列左端：須田副会長

< 茶道教授 >

赤間宗民先生を偲ぶ

寄稿 今井 秀昭

(草農業科1回生 1965年・昭和40年卒業 茶華道部OB)

皆さんは、大谷講堂の北東方向にある茶亭「千瓢」で、多くの学生が裏千家茶道に親しみ巣立っていることをご存知でしょうか？

この茶亭は学舎の建設を請け負った佐藤工業株式会社社長佐藤助九郎さんが開学(昭和37年4月)に合わせて寄贈されたものである。そこで裏千家茶道を指導されたのが、赤間宗民先生である。

1. 先生の初めての姿

佐藤助九郎さんは電力王と称された大茶人松永耳庵(安左エ門)さんから助庵の庵号を、裏千家14代家元から宗越の茶名を頂かれた、全国に馳せた茶人であった。当時、大谷米太郎さんと大谷竹次郎さん兄弟の寄付により学舎が出来上がり、その建設を請け負った佐藤さんが私も学生のために何か力になりたいと、吉田県知事に話され、「それなら茶室を」と寄贈に至ったと聞いている。

和服姿でステッキを持ち、茶亭の建設現場で指示しておられる佐藤さんの姿を、学舎の2階から見ていたことを今もしっかり覚えている。後に、赤間先生も数人の方とともに立ち会っていたと聞かされ、あの時の和服の女性が赤間先生だったのかと回顧している。

2. 稽古は優しく

茶亭「千瓢」の建築物には、茶室「洗心庵」と教場が完成し、池を借景に蹲踞や燈籠を配した茶庭も整備されていた。茶華道部が設立(昭和44年から茶道部分離)したのは、昭和38年で9月から毎週土曜日、赤間先生がお弟子さん2~3人連れだってお越しになり、最初の頃は1階の教室で帛紗捌きなど基本的な動作を教わり、そのうち茶室で一人ずつ盆略点前や、薄茶点前をお稽古するようになった。

女性ばかりの応用数学科の学生は、授業時間を割いて茶道と華道を学んでいたこともあったように思う。華道は教場を使い池坊の中島勇峰先生の指導を受けていた。

このようなことから茶華道部には応用数学科の学生が多く、数少ない男子学生がお稽古するには大変勇気のいることで、時には実験着(白衣)でお稽古

することもあったが、赤間先生からは笑顔を交えながら優しくご指導を頂いた。当時先生は45歳頃であった。

3. 先生の茶道人生

赤間先生は富山県立女学校で学ばれた後、昭和10年に京都の伯母さん宅に身を寄せ、津田宗毛先生や、裏千家12代家元夫人に仕えた川那辺宗貴先生に6年間師事し、京都で茶道の教導に当たっておられた。戦火が厳しくなり帰富されて不二越に勤務されながら、不二越や自宅で裏千家茶道のお稽古をされ、多くの人々に裏千家茶道を教えられるとともに、北日本新聞社が主催する北日本茶会の設立や、茶道団体の役員として活躍され、平成元年には、県立大学での指導が評価されて、裏千家家元から学校茶道永年勤続表彰を受賞されている。

赤間先生は、質素を常として茶道を貫き、自省生活を心の定めとされ、「咲くまでは、足げにかかる野菊かな」を先生自身の教訓歌として、私どもにご指導を頂きました。

今年1月元旦に死去された享年百歳の一生は、日本の厳しい戦争の時代を経て、復興を遂げながら、国民皆茶の時代として、職場や学校茶道等々と裏千家茶道が隆盛を極めた時代でした。

佐藤助九郎さんが学生のために力になりたいと茶亭を寄贈され、そこで赤間先生から熱心にご指導を頂きました。このご縁を大切に赤間先生の教訓に学び、ご恩に報いねばと思うことです。

— 今井 秀昭 (茶名・宗秀) —

昭和38年大学の茶道部において赤間宗民先生から裏千家茶道を習う。卒業後金沢市にて稽古を始め裏千家15代家元の講話を聞き、茶道の奥深さ、楽しさを知り、昭和46年富山に戻り、赤間先生自宅にて修習、裏千家青年部全国委員や富山支部幹事長、富山県茶道連盟理事長を務め、現在は富山支部副支部長、北日本となみ野茶会席主や北日本新聞砺波支社カルチャー教室講師を務めている。自宅には茶室「松稲庵(しょうとうあん)」があり、茶席を楽しみ男子だけで行う百草会茶事は20年続き85回を迎えた。


株式会社 中部設計

代表取締役 中 瀬 壽

 本社 〒930-0029 富山市本町10番2号
 TEL 076-442-4161 FAX 076-441-3704

 Life with Green Technology
 環境技術でひらく、豊かな暮らし

三協アルミ

 富山支店ビル建材部
 〒930-0982 富山市荒川3-2-6 TEL (076)492-0083

富山マラソン2016体験記「何が得られたか？」

富山県立大学 工学部 知能デザイン工学科 准教授 岩井 学

「簡単に達成できないことに挑戦したい」と初老を迎えたときに思いました。若い頃は何でも挑戦でしたが、今ではそれなりに仕事をやり遂げる術が身に付いてしまい、挑戦という気持ちは薄れてしまいました。運動不足による体重の激増も気にしていた折、2015年に富山マラソンが開催されることになりました。何かを変える転機にしたいと無謀な挑戦が始まりました。第1回の2015年は私用にキャンセルし、第2回の2016年が初チャレンジとなりました。本学からも教職員および学生が数多く出場し、良いタイムでゴールされた中、マラソン初挑戦の私が制限時間の7時間ギリギリでゴールした体験記を書き記します。

①準備：学会発表を申し込んだら締切までに実験し論文にまとめないといけないのと同じように、出場エントリーをしてしまうと練習をせざるを得ません。走ったこともない途方も無い距離なので、少しずつ長く、速く走られるように練習しました。週末に時間を作り約10kmを1時間ほどのペースで走る練習をしました。走ってる間は仕事を忘れるといいますが、仕事や研究のことを考えるばかりでした。結局、練習では10kmまでしか走りませんでした。富山マラソンではちょうど半分の地点にある最大難所「新湊大橋」をどう走破するか心配なままでした。

②スタート：10月30日(日)のレース当日は素晴らしい秋晴れでした。スタート地点の高岡市役所周辺は約1万2千人の出場者で混雑していました。私は最後尾でスタートの号砲を待っていました。9時に号砲が鳴らされましたが、私が走り出したのは10分後、スタートラインに辿り着いたのが12分後でした。高岡古城公園、高岡大仏、山町筋では多くの方が沿道から応援してくれて気持ちが高ぶりしました。少しでも前に行きたい気持ちを抑えて走っていました。

③最大難所「新湊大橋」：庄川河川敷を走り、新湊エリアに突入。新湊大橋の登り口の約20kmに到着したのが2時間半ほど。10kmしか走る練習をしていませんでしたが、きわめて順調。この調子だったら6時間ほどでゴールできるだろうと皮算用してました。しかし甘くありませんでした。新湊大橋で心が折れました。登坂を走ったのは最初だけで、歩かないと登ることができませんでした。橋の上で42.195kmのちょうど半分。登りではふくらはぎが痛くなり、下りでは太ももが痛くなりました。新湊大橋だけで1時間も使ってしまう、大幅なタイムロスでした。立山連峰と富山湾が織りなす美しい風景に心が震える余裕はなく、疲労で

足が震えるばかりでした。もう走れないと思っていました。

④助けられた故郷の声援と家族のフォロー：新湊大橋を降りた辺りが私の故郷です。顔見知りの皆さんから「岩井さん」、「学」、「頑張れ!」と多くの声援をもらい、救われました。実家近くで妻、娘、ご近所さん達が待っていてくれており、スタミナ補給もできました。故郷の皆さんや家族には感謝するばかりでした。

⑤ゴールできるか時計とにらめっこ、そしてゴール：30kmを過ぎてからは走っては歩くの繰り返しでした。残り12kmを制限時間までに走りきることができるか、時計とにらめっこでした。ゴールに間に合うと計算結果が得られましたが、気持ちを緩めることができない苦しい時間でした。このときに撮影された写真は酷い顔をしているので掲載を控えます。ゴールタイムは6時間49分46秒でした。感無量で涙が込み上げてきました。無謀な挑戦に対し、計画的な解決手法はなく、結局はいつもの行き当たりばったりで何とかやり遂げたといったところでした。まだ無茶なことができると自画自賛でした。

⑥マラソンによって何が得られたか：出張先で早起きしてジョギングをするのが楽しくなりました。2016年、英国・ロンドンではアビーロード、スウェーデン・ストックホルムではバイエリアを走りました。中学校の同級生と一緒にリレーマラソンに出場するのも楽しみの一つとなりました。もっぱら走った後の飲み会が主目的です。健康面では体重は変わらずです。

⑦今後の展望：2017年も富山マラソンに挑戦します。給食地点で美味しい鱈の寿司を食べ、新湊大橋



ゴールの瞬間

橋を楽々走り抜けることができよう、トレーニングしたいと思います。同窓生の皆さんもぜひ富山にお越しただき、歴史ある街並みや豊かな自然の中を一緒に走りましょう。

平成28年度 同窓会総会

平成28年度同窓会総会を振り返って

平成28年度同窓会実行委員長 田中 克典
工学部 機械システム工学科 5期生

2016年度8月13日(土) ホテルグランテラス富山にて、工学部5・6期生、短大部5・6期生が中心となり開催された。

同窓会にて実行委員長を勤めさせて頂き、実行委員会のメンバー、同窓会役員、事務局の皆様のおかげで、無事に終えることが出来、安堵しております。

これまで中学校の同窓会の代表幹事や、高校の同窓会のお手伝い等は経験していたことから、会社の先輩から「手伝ってくれないか」と声をかけて頂いた際、お手伝いぐらいならと、軽く引く受けたところ、いつの間にか実行委員長になっていました。

今回の同窓会を通じて、中学・高校の同窓会と違い、大学時代の同級生は県外で活躍している人が多いことから出席者を増やすことに大変難しさを感じました。

今回の同窓会の周知に関して、ハガキとともにSNSを活用した周知を行いました。SNSが発達し

ているとはいえ、一番効果のある方法は、やはり研究室、サークルなどの横の繋がりでの周知が一番効果的だったと思います。

それを考えると、同窓会に参加しやすくする「しかけ」の一つとして学生会・研究室・サークルのOB会や県内企業に就職しているOBとの連携、卒業時に幹事を決めてしまうと同時に同窓会の開催について案内してしまい参加者を募る等同窓会の活性化には今までと違う取り組みが今後必要と感じました。

懇親会では、約20年ぶりに会う同級生の皆が活躍している近況を聞いたことや色々人脈も広がった事、全てが良い経験・励みとなりました。

最後にこのような機会を与えて頂きました実行委員長、同窓会役員、事務局の皆様へ感謝するとともに益々の富山県立大学の「グローバル」な発展を祈念致します。



20年を振り返る

昭和26年

この数字は富山県立総合衛生学院の前身、富山県立中央病院附属高等看護学院が設立された(保健師助産師看護師法に基づき)年です。沿革を紹介すると
 昭和39年 保健婦専門学院を併設
 昭和40年 看護学科に夜間課程を新設
 昭和49年 助産学科を新設
 昭和50年 看護学科を第一看護学科と第二看護学科に分科し、4学科制となる。
 昭和51年 学校教育法に基づく専修学校となる。
 平成20年 第二看護学科を閉鎖し、第一看護学科を看護学科と改称し3学科制とした。
 平成27年8月富山県看護系高等教育機関調整検討会の報告を受け、富山県立総合衛生学院が改組して、富山県立大学の看護学部になる準備が進んでいる。

平成 27 年度春期 / 平成 28 年度夏期

ポートランド州立大学語学研修

報告書

知能デザイン工学科 2年 高野 溪介
 環境工学科 2年 地原 大
 情報システム工学科 2年 松永 清雅

(学年は当時)



高野 溪介

工学部 知能デザイン工学科 2年

今回の留学の動機は、未来の自分への投資です。私は将来英語の教師になりたい訳でも世界各国を飛びわたるバックパッカーになりたい訳でもなく、ただ自分がこれから新しいことを始めたり挑戦したりする中で、少しでもこの語学研修を通して得た経験が生かされれば、今回の語学研修にかかった費用である約 50 万円という値段以上の価値があると考え、参加を決めました。

この語学研修では、学生それぞれが現地でホームステイをして学校に通うことで、アメリカでのリアルな生活を体験できます。私がこの研修に応募する時に一番魅力を感じたのはまさにこのことで、知らない土地で、言葉も十分に伝わらない人たちと触れ合うことで、何か新しい感性を得られるのではないかと期待に胸をふくらませていました。そのような期待は現実のものとなり、何事も積極的に取り組むことで、多くの思い出を残すことができました。

私のホストファミリーは私のことを本当の家族のように受け入れてくれ、それは私が積極的に英語で話しかけられるようになるきっかけにもなりました。センター試験のリスニング英語もまともに聞き取れなかった私が、現地のアメリカの人と、英語で理想の結婚生活などとても個人的な事などについて約 3 時間も話すことができたのは、日本の大学の英語の先生とは異なる特別な関係性だからこそできたことであり、私の英語力は飛躍的に向上しました。

今回の語学研修を通して、ポートランドの人々の人間的魅力というものを最も強く感じました。ポートランドの人々は個性をととても大切にしている、周りの人との相違点はその人の価値であるという考えを持っていました。

私は、個性というのは周りの人が受け入れて初めて個性になるのであり、受け入れられないものは非難されるべきだと考えてきました。

しかし今回の語学研修を通して、人の個性というものを客観的に良し悪しで判断するのではなく、それを受け入れようとする姿勢が大切なのであり、私に不足していたものだったと実感しました。まだまだ自分の把握していない自分の中の変化というものはたくさんあると思うので、今後の学生生活や就職活動においてその引き出しを開けていけるように、自分の変化したであろう感性を日頃から意識していこうと思います。



左奥キャップ・ホストファミリーと

CREATION of NIX

それは、創る未来。

NIX

株式会社 新日本コンサルタント

■本社(富山市)・東京本社 ■富山空間情報センター ■新桜町オフィス
 ■支店: 金沢・大阪・城東・横浜
 ■営業所: 中新川・南砺・新潟・能登・関西(神戸)

www.shinnihon-cst.co.jp

理化学器機・産業器機 計測・試験機器

山 本 理 化
山 本 文 雄

〒930-0887 富山市五福二区 5369

TEL: (076)432-1658 FAX: (076)432-1659

E-mail: yamamoto-rk@fancy.ocn.ne.jp

つなぐ、つたえる、つくる
「心」動かす制作を

Web制作・デザイン



心彩 ここいろ

ホームページ制作・イラストレーション・チラシ/ポストカード・機関誌
 システム構築・ECサイト運営サポート・PCお悩み解決訪問サービス

代表 炭谷 優子 〒939-0256 射水市広上361-33 TEL 090-2035-0007

心彩PCサポート・メンテナンス 090-7743-0423

ホームページ <http://coco-iro.com> [ココいろWEB](#) [検索](#)

地原 大

工学部 環境工学科 2年



私が語学研修の参加を決めた理由は3つあります。1つ目は大学に在学している間に学生ならではの何か貴重な体験をしたいと考えていたこと、2つ目はアメリカという国に興味があったということ、そして3つ目は同じ高校に通っていた他大学に通っている友達と再会した時にその友達がこのプログラムに参加した体験を私に話してくれたことです。初めは楽しそうだなとか自分も行けたらいいなという軽い気持ちでしたが、プログラムに参加して価値観が変わったと言われた時に心が動かされました。価値観というものは簡単には変わらないものだと思っていたので、実際に身近な友達にそのような変化が起こったと聞くと、疑いつつも強く興味を抱きました。

実際にこのプログラムに参加して経験したことは、私の人生においてかけがえのないものになった



右端の女の子背負う・ホストファミリーと

松永 清雅

工学部 情報システム工学科 2年

私は、以前からアメリカに留学し英語や文化を学んでみたいと思っていましたが、なかなか機会がなく半ば諦めていました。しかし、大学が留学の募集をしていると知り、早めに行った方が留学での経験を早く大学生活に生かすことができると思い参加しました。

現地での生活は、最初は分からないことばかりでしたが、学校の先生やこのプログラムの現地学生アシスタントさんが色々なことを教えてくれたり、他の参加者と協力したりしたので、充実したものになりました。ポートランド州立大学では、授業で日常会話や現地の生活について学び、学外活動ではアメリカやポートランドの文化について学びました。ホームステイでは、ホストと一緒に食事をしたり、家事を手伝ったり、休日にビーチに出かけたり、家族で集まって団らんしたりするなど、様々なことを体験しました。自由時間には、アメリカの街を歩き、日本とは違う街並みや、おいしい料理などを楽しみました。

私はこの留学で様々なことを学びました。現地では人と人の距離がとても近く、約三週間という短い

と思います。街角でネイティブの人にインタビューする機会があり、このおかげで実際自分の英語がどのくらい通じるのか試すことができました。また、ポートランド州立大学に通う現地大学生が、学生アシスタントとして携わっており、私達が分からない事があると簡単な英語で説明してくれるなど手助けしてくれました。違う国の同世代の人々と触れ合う事はとても刺激的な経験でした。

ホームステイでは、ホストファミリーが家に帰ると温かく迎えてくれ、その日の出来事などを話し合いました。初めは会話がおぼつかなく聞き取れない時は何度も聞き返したりしていましたが次第に会話ができるようになり、ホストマザーには「来た時より遥かに英語が上達したね」と言ってもらえました。今思うとこの何気ない会話が英語の上達に繋がったと思います。日本に帰ってきた後もメールで頻りに連絡をとり合っています。

このプログラムに参加して、語学が単なる学業ではなくコミュニケーションをとるためのものだと実感しました。まだまだ英語が十分に使えるレベルに達したとは思えません。しかし、英語で会話することへの抵抗、苦手意識が無くなり、英語での会話が楽しくなりました。ぜひ他の学生の皆さんにも参加してもらいたいです。

最後に、助成金をくださった後援会並びに同窓会の皆様を初め、このプログラムの参加を承諾してくれた両親やご協力して下さった皆様、本当にありがとうございました。



右端・ホストファミリーと

期間でしたが、学校の先生や他の留学生、ホストと日本では考えられないほど親密になることができました。また、英語で話さなければならないので常に集中して話を聞いていましたが、思うように会話するのは大変でした。現地にいたときは、こうしたことは自然なことだと思っていましたが、日本に帰ってきて初めて日本とアメリカの違いや、英語の上達に気付くことができました。異文化を理解したり、外国語を学んだりする際、実際に行ってみないと分からないことばかりだと思いました。これからは、留学での経験を生かして英語や他の外国語を勉強し、異文化はもちろん日本の文化についても考え、広い視野をもったグローバルな人材になりたいと思います。

吉田初代千瓢会会長を想う

前同窓会会長 荒木 甫

平成28年8月のお盆過ぎのことである。

新聞のお悔やみ欄の高岡市のコーナーに「吉田定男」の四文字が・・・驚いた。

年齢から考えても、住まいから考えても間違いなくあの「吉田定男」さんだ。

半年ばかり前に電話でOBの情報交換をしたばかりなのに???

暫くは偉大な先輩を失った喪失感で頭の中が真っ白であったが、気を取り直してご自宅に電話を入れた。

家の外での付き合い（仕事・ボランティア等々）は「本人とは深い付き合いはあるが家族の方々とはさほど…」と云うのが一般的なスタンスであるが、吉田初代千瓢会会長（以下吉田会長と書かせていただく）とはまさしくこのような関係であったので、奥様には「自分は亡くなられたご主人とはかくかくしかじかの関係のあった人間である。新聞を見て大変に驚いた。ぜひ吉田会長にお別れの言葉を贈らせていただきたい」とのお願いを申し上げたところ快くご承諾をいただいた。

お別れの文書は、吉田会長の会長在職期間があまりにも永かったことから必然的に長くならざるを得ず、参列の皆様方には大変にご迷惑であったことだろうと思っている。

しかしながら、翌日息子さんから、お礼の言葉とともに「父は仕事の事も同窓会の事も殆ど家では話すことが無く、外でどんな事をしているのか全く知る術がなかったが今回のお別れの言葉でその一端を窺い知ることが出来て大変に嬉しかった」とのお言葉をいただき、少しは偉大な先輩にご恩返しが出来たのではないのかとホッとしている。

前段が長くなってしまったがこれから本題に移ることとする。

吉田会長は、昭和37年4月の富山県立大谷技術短期大学の開学時に農業機械科の第一期生として入学、同39年3月の卒業と同時に創立された富山県立大谷技術短期大学同窓会の初代会長にお着きになり、爾来平成6年10月の総会で退任されるまでの30年と6カ月の永きに亘り会長をお勤めいただいた。

少し話は横道に逸れるが、在学中は1期上の先輩は神様の如くに怖い存在であり、当然吉田会長もご多分にもれずに怖い神様の一人であり、常に下から仰ぎ見て気楽に話しかけることにはそれなりの抵抗を感じずる存在であった。

短期大学の宿命で在学中のお付き合いが1年間と大変に短いものであったことと自分達が衛生工学科の第1期生と云うこともあり、学業・学外活動ともにどの様に進めどの様に形作っていくかに心を傾注していたことから、吉田会長がご卒業と同時に富山県の農地林務部（当時の呼称）にお勤めになったことも同窓会長にお着きになったことも蚊帳の外であった。

自分は短大を卒業後4年制大学に編入をし、卒業と同時の昭和43年に富山県土木部に勤めることとなったが吉田会長との再接点はこの時からで、吉田会長が農地林務部耕地課、自分が土木部河川課で、農業用に利用する水を担当する側と河川からの水利用を管理する側の立場であった。

水を利用する立場と水を管理する立場は全くの逆であり、会議では火花を散らすことが恒常的であったが、ひとたび会議が終わればそこは先輩・後輩の中で大変に親しくしていただいたことが懐かしく思い出される。

その様なお付き合いの中で吉田会長から「荒木君どうや！同窓会の世話してくれんか？」との声がかかり、何年の何月からは記憶に定かではないが自分の同窓会お世話生活がスタートをしたのである。

同窓会設立から自分が加わるまでの期間の苦労話は、ついに吉田会長にお伺いする機会は無かったが、レールの無いところにレールを敷きながら走る不安とご苦労には想像を絶するものがあつたに違いないと思っている。

自分が同窓会の世話を仰せつかった頃は、それなりに同窓会活動も安定をし、先にレールは無いものの進むべき方向はほぼ見通せる状態であり、誕生期の苦労を味わう状況には無かったものの会員数が年々増加していくにも拘らず総会への参加人数が少なくと云う問題（これは自分が会長を辞めるまで続いた問題ではあつたが）に頭を悩ませた。

富山市内の方が集まりやすいのでは・・・と婦人会館での開催や県職員会館（この二つの会館も今は存在しない）での開催を企画したのも懐かしい思い出である。

同窓会が1972年（昭和47年）の校名変更に伴い、富山県立技術短期大学同窓会と名称変更をしたので、必然的に吉田会長には初代富山県立技術短期大学同窓会長にお着きをいただくこととなった。1981年（昭和56年）には開学20周年を迎えることとなり同窓会では記念事業として中庭にパー

ゴラを寄贈することとなったが、ここに至るまでの吉田会長の決断と対大学・対施工業者との調整能力には目を見張るものがあったとの記憶は鮮烈である。

また同窓会の収入源が、同窓会への入会金のみと云う状態であったために、年間収入から総会費用を差し引くと残額がさほど大きいものではなく、まとまった支援活動が出来ないとの恒常的な悩みがあった。

この問題をどう解決するか…と云うことで吉田会長を中心に鳩首を並べたのも懐かしい思い出である。この鳩首会談での秘策については、長くなるので稿を改めてお話をしたい。

ただ如何なる状況下においても吉田会長が大きな声を張り上げられることは無く「お前っちゃ、そんなこと言うたら元も子もないねかあ…こんな方法もあるがでないかあ…チョット考えてみんまいかあ〜」とのゆったりとした吉田節(標準語からは程遠い地元弁)で議論が沈静化したことも多々であった。

吉田会長の前に吉田無く(これは当然であるが)吉田会長の後に吉田無く…とと思っていたのは自分だけでは無い筈で、殆どの役員が同窓会の続く限り吉田会長には会長職をお続けいただくものだと思っていたと思う。

しかしながら程なくして4年制の県立大学の構想が打ち出され、1990年(平成2年)に工学部と短期大学部の2学部を擁する県立大学が開学の運びとなった。

翌年の3月には県立大学としての初めての卒業生(短期大学部)を出すこととなる平成3年の総会をひかえ、これまでの「富山県立技術短期大学同窓会」の名称では実状に合わないことから同窓会の名称変更の議論がなされた。

その結果として、太閤山の地名の由来となった太閤秀吉ゆかりの馬印(大学の敷地内にこれからいただいたと思われる「千瓢」と云う茶室がある)から同窓会の名称を「千瓢会」としたが、これにも吉田会長の意向が強く反映されたと記憶している。

ここに吉田初代千瓢会会長の誕生をみることとなり、翌年には短期大学部の卒業生を目出度く迎え入れることとなった。

これと併せて機関紙「千瓢会だより」が創刊され、吉田会長には、この後も2年後に控えた工学部卒



業予定者への入会の働きかけや、その迎え入れのための態勢づくりなどに力を注いでいただいたが、最終的には工学部が独自に同窓会を作ることとなった。

この工学部の最終方針が決まった段階で吉田会長から「もういいやろう…ちょうどいい節目やしこころ辺で辞めさせてほしいなあ〜」との意見具申がなされ、これまで神の如く敬慕して来た吉田会長の申し入れに、役員一同「天変地異・震天動地」の如き心境に陥ったが、これまでの永い間「お願い!お願い!」を申しあげ会長職を続けていただいていた経緯もあり、涙をのんで平成6年10月の総会をもって会長職をお引きいただくこととなった。

考えてみれば、昭和39年4月の会長就任以来30年と6カ月の永きにわたり会長職をお勤めいただいたこととなるが、これは生まれた子供が成長して大人になり、家庭を持ち、パパ・ママになるうかと云う恐ろしいほどに長い時間である。

この間通常同窓会活動は当然のこととして、十数回に及ぶ同窓会名簿の発行、開学十周年および二十周年記念誌の発刊と関連事業の実施、同窓会機関紙「千瓢」「千瓢会だより」の発刊などに力を注いでいただいた。

同窓会活動も決して順風満帆であった訳ではなく、先にも述べたように誕生期・創成期は同窓会そのものの歩んで行く方向の模索、そして生育・成熟期においては2年制に起因すると考えられる同窓生意識の薄さ、限られた会費収入の中での事業の遂行などなどに大きく知恵をしぼっていただいた。

吉田会長が唯一お心残りとしてされていた「千瓢会」と「工学部同窓会」の一大学二同窓会の形も平成17年11月の総会をもって1本化し「富山県立大学同窓会」とすることが出来たが、この時には大変に喜んでいただいた。

このことが吉田会長への最も大きなご恩返しになったのではないかと自分自身を慰めている。

ここに改めて吉田会長の偉大なご功績に対し心から感謝を申し上げるとともに、遠い空の上から同窓会をお見守りいただくことをお願い申し上げて筆を置くこととする。

—我々は創造する楽しみを持つことだ—



竹沢建設株式会社

代表取締役 竹澤 由之

本店 〒934-0056 富山県射水市寺塚原836番地3
TEL(0766)84-8888(代) FAX(0766)84-8865

— 前号プレゼント当選者発表 —



2本セット

館 身果
北林 恒好
田近 憲一

当選おめでとうございます。





池上 勁 (大谷・機械科1期生)

①本を愛し本に憑かれた人たちの姿を
『古本綺譚』(出久根達郎著・中公文庫)

本のために数軒の家を借りている。ユネスコで青空古本市をもう40年前からやっている。家庭にある不要な本を提供してもらい、半年に一度、古本を安く売るのである。半年の間に提供受ける本が数千冊、そして一回の古本市で売れる本が2千冊に満たない。簡単な計算で一回約3千冊以上の本がたまる、今秋十月で82回になるから、数十万冊の本が手元に残る。

これをどうするか。初めは家の倉庫に入れた。家業が酒屋なので好都合。だが家人から苦情続出。ビールを置く場所を本が大きな顔で占領しているのだから。友人の部屋を借りたりしていたが、今は数軒の家を借りて本が置いてある。

時々、その部屋へ本の整理に行く。ここで弱ったことが発生。古本市を企画したのは本が好きだから始めたことで、本の整理を始めると、読みたい本が出てきて整理が中止。先日も整理の途中でそんな本に出くわした。

『古本綺譚』(出久根達郎著・中公文庫)がその本だ。東京の杉並で古本店を営む著者が店で出会った本を愛し、本に憑(つ)かれた人々の話を書いた本。

読み進んでいくと、古本屋店先の均一台の本を全部買っていく男の人の話が目に止まる。一冊百円均一と書いてある台の本を一冊残らず来るごとに、買っていく。

その人と話しているうちに、友達になり、アパートを借りるときの保証人になる。その人がいつのまにかいなくなり、借りて住んでいたアパートの部屋を開けたら、部屋中、本があふれ、床から天井まで、びっしりと本が詰まっている。その人が、本だらけの部屋のどこかに隠れているのではないかと感じるという、ちょっぴり怖い話。

ここまで読み進み、周りを見渡すと、この部屋も本だらけ、足の踏み場もない中で立ち読みしている自分を見つけ、背中に寒い物を感じた。

②ゴウさんの本

『こんな美しい夜明け』(加藤剛著・岩波書店・2001年)

僕がお茶の間に『大岡越前』としておなじみの加藤剛さんをなぜ「ゴウさん」と呼ぶのかは、25年ほど前に遡ります。恩師の足立原貫先生が富山県の大沢野町で、木下恵介映画祭を開催しておられたとき、僕はお手伝いをしていて、ゲストとして参加された加藤剛さんにお目にかかったのが最初です。

二回目は、足立原貫先生の「草刈り十字軍」の映画化の時、加藤剛さんが足立原先生役で出演されることになり、僕はアシスタント・プロデューサーとしてお手伝いしました。僕にとってはたまらない響きで、名刺をもらった時はうれしかった。

映画「草刈り十字軍」は1996年5月18日クラン

クイン、8月13日クランクアップ、1997年1月11日富山で全国初のプレミアショーを行った。その間、まさに嵐の中にいるようでした。

それより少し前、ラッシュの映写を見るために、東京の日活撮影場で俳優座の古賀伸雄社長さんに会って「これからのゴウさんの目指すのは伊能忠敬です」と話された。そのとき僕の中では加藤剛さんが「ゴウさん」になった。

三度目に会ったのは2001年正月、『伊能忠敬物語』の富山公演のオーバードホールの楽屋で、伊能忠敬として歩いておられるゴウさんが、目の前におられた。

そのゴウさんが『こんな美しい夜明け』(岩波書店・2001年)を出版。三冊目のエッセイ集で、一冊目の『海と薔薇と猫と』(創隆社・1980年)で完全にノックダウンを喫しているの、今回も完全に脱帽。俳優生活40年の話が満載。

あの草刈りの映画について「空澄むや草刈る人の夏深し」と題する一文も載っていた。あの暑い夏の日が帰ってきた。

③重いヒッチコックの本

『映画術 ヒッチコック／トリュフォー』
(山田宏一・蓮實重彦訳、晶文社)

重さがノート型パソコンほどの本がある。重さを量ったら1250グラムあった。

その本は『映画術 ヒッチコック／トリュフォー』(山田宏一・蓮實重彦訳、晶文社)、映画評論家から映画監督になったトリュフォーが映画監督ヒッチコックにインタビューして構成した本です。ブックデザインとレイアウトは、平野甲賀が担当している。

尊敬するヒッチコックから映画についてどうしても聞いておきたいことがあり、五百項目の質問を用意し、五十時間におよぶインタビューを試みている。

本の内容は年代順に一本一本の作品がどのようにして生まれてきたか、具体的な製作事情、発想、映画のシナリオがどのようにして組み立てられたか、具体的な構想、展開、作品を演出するにあたって生じた諸問題をどのようにして解決したか、具体的な個々の例、ディテール、等々、作品をヒッチコック自身がどのように評価するか、当初の抱負とできあがった作品の商業的および芸術的な価値についての判定を記している。

「北北西に進路を取れ」からのヒッチコックファンで、今までに30作品程見ている。僕は面白い映画は何度でも見るくせがあり、これは至福の楽しみである。映画を反芻して楽しむことが出来る。この本がなければ、ヒッチコックを深く理解することが出来なかったと思う。また本当の映画の楽しみを教えてください。トリュフォー自身の作品も素敵だが、この本はトリュフォーの作品と同じくらい、意義のある仕事だと思う。

二人の出会いに思いを馳せ、今日は『裏窓』それとも、『サイコ』、『鳥』、『フレンジー』を見ようか…と迷うのは楽しい。見終わったら、重い本を引っ張り出してまた楽しもう。

同窓会日誌

No.15

この日誌は富山県立大学同窓会の荒木薫事務局長の日誌です。
2016年5月24日～2017年3月18日

【2016年】

5月24日

これから学科の新設や各科の増員などを踏まえ同窓会の名簿システムを新しくしました。業者さんに新しいシステムのオペレーションを半日掛けて教えて頂きました。

5月28日

実行委員会でした。同窓会案内往復はがきに委員の方々がメッセージをたくさんの方に来てもらおうと書き込み、発送しました。

6月3日

千瓢第11号の完成です。昨年より2か月前倒しの発行予定で動きました。少し予定より遅くなってしまいましたが想定内ということで良しとしましょう。編集長池上さん、編集の炭谷さんお疲れ様でした。

8月7日

同窓会総会前の最後の実行委員会です。最終調整や準備詳細を確認し当日に備えます。

8月13日

平成28年度同窓会総会・懇親会でした。今回の年代は私の世代でした。久しぶりの再会はなんとも嬉しく顔が自然とほころぶものですね。その当時のことが思い出されまた数年ぶり、卒業以来の面影からすっかり大人になっているものだと感慨深くなりました。

声

♣植松 哲太郎（富山県立大学名誉教授）

「千瓢」第11号を拝受しました。新しい企画の第一号に選んでくださったようで、恐縮しております。果たして任に耐えたかどうか心許ない気持ちですが、今後、いろいろな方の3冊を楽しみにしております。「千瓢」は薄い冊子ながら、大学の様子がいろいろわかる記事で埋まっていて、楽しく読んでいます。昨年の同窓会実行委員長の酒井秀仁君は小生の研究室の卒論研究生でした。彼の手記にもあるように、最後の猛烈な追い込み実験で卒業に漕ぎつけました。忘れられない卒研性の一人です。今では田中精密で立派な技術者になりました。

どうぞ今後も素晴らしい「千瓢」でありますように。

♣山本 憲司（大谷・1機械）

お盆中の同窓会、残念ながら他の行事と重なり参加できません。盛大に交流下さい。「千瓢」工夫して興味あるものになる様願う。少しずつ良くなっているのでは、県大ならではと思うページ在るも良し。担当者大変でしょう、ご苦労様です。年会費送金しておきました。

10月30日

関東で活動されている同窓会の関東エトワール会への出席を荒木顧問と須田副会長が出席されました。富山からの出席は稀なことでも賑やかな会になったようです。

【2017年】

1月14日

今日からセンター試験です。毎年この時期は雪がひどく受験生にとっては大変でしょうが、来年度から新設される医薬品工学科が今回から増え、各学科の増員で春からの新入生が増えるのが今から楽しみです。

2月24日

役員の方の吉野さんが海外転勤の為送別会です。工学部1期生の吉野さんには実行委員長をお願いした際になにかと役不足な私にサポートしてくださりととても感謝しています。役員での海外転勤は二人目で海外にいらっしゃる同窓生の方も増えてきています。

3月11日

役員会でした。新年度から入っていただく新役員（工学部から2名短大部から4名）の顔合わせと来年度同窓会についての話し合いです。今年度は足立原先生の記念講演会の企画をすることになっていきますので、久しぶりに先生のお話を聞けるとあって楽しみに来てくださる同窓生の方々がいらっしゃったらいいなと思っています。

3月18日

27年度卒業式謝恩会へ会長とともに出席しました。222名の学生さんたちが卒業を迎えられました。スーツ姿やはかま姿で卒業式を終えたばかりの学生さん達の姿は毎年新鮮で清々しい気分させられるものです。

♥谷口 奈穂（短・18環境）

短大を卒業して8年程経つが、卒業後の大学や先生の近況を知ることができ、懐かしさと安心感があります。黒酒の開発が行われ、売られていることを初めて知りました。「千瓢」を読むことで、普段知ることのないニュースを知れて良いです。

♣谷村 実（技・機械1966年卒）

今年の卒業生の県内就職率は42.8%で、大学ではもっとアップしたいとのことですが、県外を選択した卒業生も多く、悩ましいところです。富山には魅力ある企業も多いので地元の利を生かして、企業も学生もお互いをよく知る工夫が必要かと。ついてはツールとして現役OBや在校生の皆さんには「千瓢」を活用したらどうでしょうか。

♣早川 俊一（大谷・1草農）

「3冊の本」は誠によい企画です。退職して7年間これとゆう本を読んだことが無かったが、これを機会に又、少し本を読もうとおもいました。

♣溝口 純（大・12電子）

大学の頃をなつかしく思い出しながら読ませて頂きました。

公開講演会

足立原先生大いに語る

～草刈り十字軍運動の軌跡～



TORU
ADACHIHARA

入場無料 一般公開

2017

8月12日(土)

16:00～17:00

ホテルグランテラス富山

平成29年同窓会総会のお知らせ

日時

平成29年8月12日(土)

15:00～15:30 総会

16:00～17:00 講演会

17:00～19:00 懇親会

会場

グランテラス富山 (旧名鉄トヤマホテル)

富山県富山市桜橋通り2-28

電話 076-431-2211

懇親会参加費

4,000円 当日会場にてお納め下さい。

尚、懇親会には酒類もご用意しております。飲酒運

転となりますので、お車でのご来場はご遠慮下さい。

連絡先

富山県立大学同窓会事務局 荒木薫

〒939-0398

富山県射水市黒河5180

TEL 0766-56-7500 (内線130)

FAX 0766-56-0396

E-mail senpyokai@pu-toyama.ac.jp

出席される方は7月7日(金)までに下記へご連絡ください。同封のはがきでも申し込みいただけます。



本学の校歌を制作することとなりました。これに同窓会も協力します。その取り組み状況はHPにて掲載しますので、是非ご覧ください。 <http://tpu-dosokai.jp/>

編集後記

▼大学の茶道部で永年指導していただいた赤間民子(宗民)さんが亡くなられた。初めて赤間先生の家を訪ねたときのことは忘れられない。大学で茶道部を作ることになり、使者として学生が頼みに行くことになり、どうしてか分からないが僕と友達、ふたりで頼みに行ったのが赤間先生との出会いです。もちろん茶道部の先生を快諾頂き、その時に頂いたお茶の味は格別でした。帰りに友達と一緒に「素敵な先生で大変美しい人だ」と話し合ったのを思い出す。半世紀以上も前のことだが先生のお宅を訪ねたときのバス停を覚えている、時々そのバス停を通るとき先生のことを思い出

す。赤間先生には毎週お弟子さんと一緒に生徒の指導をして頂いた。今と比べて大学へ来るのは大変不便で、そんな中、一生懸命に生徒への指導をして頂いた。その時僕は何故、先生がこれほど熱心なのか分からなかった。今は、先生はお茶の道に対する使命感に動かされて行動しておられたのではと想像している。僕は不肖の弟子でしたが、妹が先生の家にも習いに行き、途中で県外へ引っ越したので途中になりましたが、先生とは家族ぐるみのおつきあいをして頂いた。赤間先生本当にありがとうございました。

▼今年度、同窓会の記念講演は「足立原先生大いに語る」です。乞うご期待。

▼今号にも、アンケートはがきを同封しました。お便りをお待ちしています。では次号まで。

(池上 勁)